

1.コミケットにおける会場設営の歴史

幕張に行く前の晴海時代(～C36)

この頃はまだ設営作業を取り仕切る専門スタッフは存在していませんでした。たまたま設営に参加できるスタッフ(設営日に殆ど作業の無い混雑対応が中心)と、前日販売や前日受付を利用するサークルさん、また前日の早い時間に来ていた徹夜組でほぼ構成されていました。作業開始は12時、これは会場の使用が12時からだった為です。また事前ミーティングなどは行われていなかったので、昼頃に集まって図面を受け取とり、それぞれが各館に散って作業を行っていました。この頃の図面はカタログに付いている図面に通路幅や大体の基準からのメーター値しか入っておらず、毎回決まった位置に机が置かれることは当たり前でした。また、館内に柱のある場所では毎回誤差が出て、図面と柱の位置関係が矛盾していながらも、机の数が合っているため当日たまたまその場所に配置されたサークルさんが混乱するという一幕もありました。作業規模は、C36が東館・西館・新館1階の使用で約5000スペース/日、それを約100名程度で作業を行い、終了が17時前後だったと記憶しております。

幕張メッセ時代(C37～C39)

この時代もまだ専門スタッフは存在せず、設営作業への参加者、作業開始時間なども変わりはありません。しかし、この大きな会場に挑んだ参加者達でしたがトラブルが絶えませんでした…。経験したこと無く大きな会場。ホール内は奥行きが110mあり、横も3ホール分ぶち抜きで180mあるこの会場で、最長で50mしかないメジャーで測量を行えば誤差が出ないわけがない。机を並び終えた後、会場内を見るとなんとなく斜めになっている有様。また、測量作業の未熟さから、ホールの端から端まで測量を行うと何故か外周通路が2m近くも狭くなっていたことも…。当時は「図面がいい加減だから」ということでシラを切りましたが、当日の混雑対応は大変だった記憶があります…。作業規模は、C39が4～7ホールの使用で約7500sp/日、それをやはり約100名程度で作業を行い、終了は18時前後。新天地幕張は当時は交通の便が悪く、あまり作業人員が増えませんでした。机・イスを並べる時間も比例して多く掛かるようになってしまいました。

戻り晴海(C40～C49)

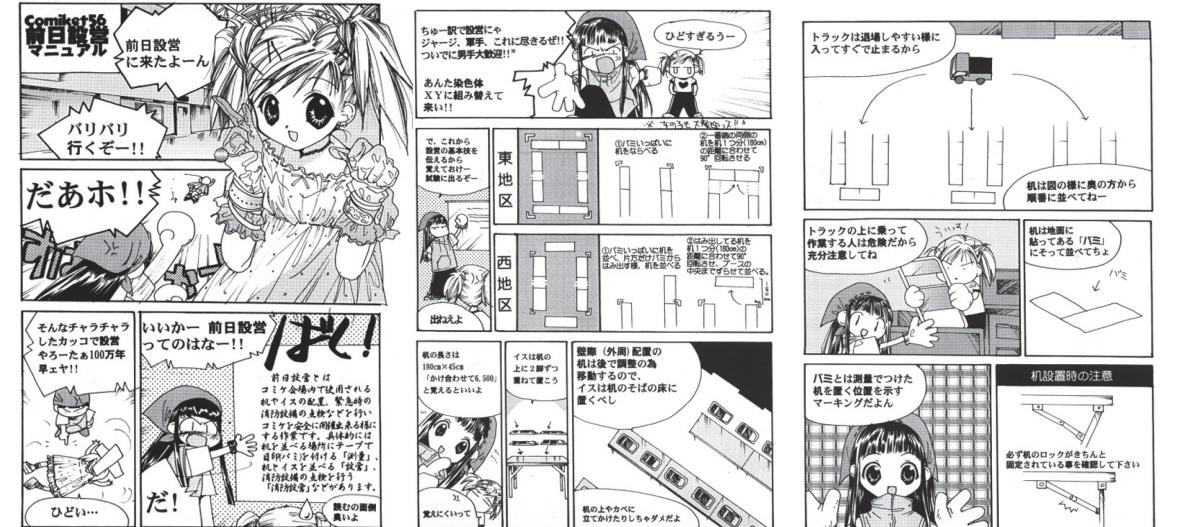
この5年の間に「前日設営部」という部署が立ち上りました。しかし、統括を含め、若干名のスタッフがいるだけでとても全ての設営作業の陣頭指揮を取れるようなものではありません。それでもノウハウの溜まってきた設営ボランティアが現場を切り盛りしてくれたお陰でなんとかやれている状態でした。しかしここで設営作業にとって大きな事件がおきます。当時、前日販売時に申込書を購入すると、設営作業を手伝ってくれた、または

コミケット開催に30年の歴史があるように、会場設営にも30年分の歴史があります。ここでは使用した会場と共に、その当時の思い出などを振り返ってみたいと思います。また、一部ではあります作業当日に配布しているマニュアルや、懐かしい晴海時代の作業風景を撮った写真も紹介します。これからもコミケットある限り続く会場設営。興味が沸きましたら一度ご参加されてみてはいかがでしょうか?(設営部)

2.設営に関する発行物

(1)設営マニュアル

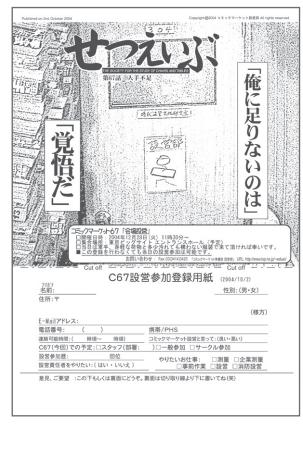
会場設営に参加していただける方に、作業内容が簡単に分かるようにと毎回作成しているのが、「前日設営マニュアル」です。設営マニュアル自体は晴海時代(正確な回数は失念しましたが)から作ってはおりましたが、現在の漫画形式のものはC50から始めました。マニュアルを作り始めたきっかけは、館内担当責任者の「短い時間で理解するには文章ではダメ。あとどうせコミケトなんだから説明もマンガでやれば?」という助言からでした。そして出来たのがC50のマニュアルです。3ページ半という短いページ数に必要事項を判り易く詰め込むのは結構大変なもので、また情勢の変化や事故が発生した次回からはその事についてのコマが増えたりで、全てをうまく纏め上げて頂けた作家の方々には頭が上がりません。本当にご協力ありがとうございました。



(2)設営スタッフ募集チラシ(内部向け)

前述の通り、晴海時代の人数激減以降、スタッフ側だけでも人数を確保するためにスタッフ向けのチラシの作成をはじめ、スタッフ拡大集会などで配布をしています。現在でも設営日に設営スタッフとして作業にあたっている人数は約20名ほど。これからも作り続けなくてはならないようです…。

コミックマーケット設営部の情報サイトは[こちら](http://www.tsp.ne.jp/~setuei/)です。設営に関する情報のほか、過去の設営マニュアル等を掲載しております。興味を持った方はぜひご覧下さい。
<http://www.tsp.ne.jp/~setuei/>



作家座談会

C翼・星矢・トルーパー

座談会 part3

- Q1.同人誌を知ったのはいつ？ どうやって？
- Q2.初めて同人誌を作ったのはいつ？ その時の感想は？
- Q3.コミケットを知ったのはいつ頃？ どうやって知りましたか？
- Q4.コミケットに初めて来たのはいつ？ その時の感想は？
- Q5.ペンネームとサークル名の由来は？
- Q6.今までのジャンル歴史は？
- Q7.これまでの商業ベースでの活動歴を教えてください。
- Q8.最近の同人活動について教えてください。

源氏街子

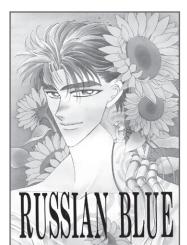
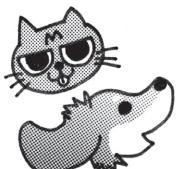
当時のペンネーム／
源氏のお町(J9～C翼)

当時のサークル名／
C翼→阿佐ヶ谷同盟、
トルーパー→愛情パンク



佐野真砂輝＆わたなべ京

当時のサークル名／
CRY MAX



A1.中1の時、友達のお姉さんに連れられてコミケに参加。同時期創刊したアニメ誌で同人誌を通販で購入。A2.中学2年。ジャンルは「ボルテスV」と「リングにかけろ！」。電話帳で調べた小さな印刷所で本文を刷って手製本。A3～A4.中1の時。グレンダイマーの同人誌で、甲児と大介さんがHしてると漫画を読んで「マリアちゃんがいるのに何で男同士で恋なんだろう？」と疑問に思いました。A5.PNIはJ9のキャラと、当時の髪型が平安時代めいたいので。サークル名は秋元康の「ハートに募金を」を聞いて「愛情をためよう」と思って。A6.ボルテスV→J9・アクロバンチ→C翼→S星矢→トルーパー→SMAP→幽白→ガンダムW→ヴァイス→GPM・スクライド→デジモン・雷童→指輪→テニプリ→ハガレン A7.88年小学館漫画賞佳作。89年少女コミックでデビュー。89～93年・少コミ、94～96年・学年誌、94年～現在・少コミcheese！ A8.余暇にのんびりと好きなジャンルの本を作っています。

へうがけん・里中守

当時のサークル名／
突貫工事！
おぢろう組っ



A1.へうが／中学の頃友人が見せてくれた。里中／姉が借りてきたヤマトのコピー本を読んだのが最初。A2.へうが／81年頃、友人と「リンかけ」「ダイモス」などのパロ本を。里中／へうがさんのお手伝いをしていて84年頃のドカベン本から描き手として参加。A3.中学の頃、多分アニメ雑誌で。A4.里中／友人の友人の友人が参加していたので荷物持ちで入れてもらつた(当時は何人でも入れた)。へうが／82年冬コミから。最初からサークル参加でした。A5.へうが／C翼時代のカッピリングで「ひゅうが×けん」がなまつてへうがけん…です。里中／ドカベンのキャラから適当に。かといって里中×不知火ではありません。サークル名／小次郎のお地蔵さんがあつたら怖いねって話してたらいつの間にか… A6.リンかけ・ダイモス・ゴッドマーズ→ドカベン(ここから里中が参加)→C翼→FE、FF7→ヒカルの碁。89年からは愛猫本も発行。A7.へうが／朝日ソノラマよりコミックス「THE HIDEKI」1、2巻、桜桃書房、ムービックで小説を、里中／小説の挿絵を結構描かせていただいたと思うのですがあまり活動してません。A8.愛猫+旅行のエッセイ本とヒカルの碁のヒカル×アキ本を出しています。ひそりやっていますので年寄りだからといいでいちめいで下さい。

徳川蘭子

当時のペンネーム／
C翼→蘭堂としや、
星矢→出戻蘭子、
トルーパー→徳川蘭子

当時のサークル名／
C翼→愛どるくらぶ、
星矢→くらぶ花椿、
トルーパー→O.mit



A1.友人がOUTというオタク雑誌を持ってきてパロディの存在を知った。その子が転校し、仕方なく自分で買う様に。その記事のガンダムFCに入ったのが運のツキ…。A2.多分高2の時。アニバロ本で悪友との2人誌。印刷代に5～6万かかり、バイトが大変だった記憶しかない。A3.中3の時。FCの会長さんに教えてもらった。A4.中3。C20で南館2Fで開催していた。春なのに雪だった。当時ハマっていた車田系をぐるぐる見て回った記憶しかない。A5.PNIはそれまで使っていた蘭の字から蘭子。トルーパーのキャラは武将の苗字を使っていたので、一番エラそうでいい所どりの徳川に。サークル名(O.mit)はやる気なさげな響きが気に入った。A6.マクロス・プラレス三四郎→C翼→星矢→トルーパー→サイバー→セーラームーン→スラムダンク→サクラ大戦→FF7→頭文字D→テニプリ A7.友人に頼まれてノベルズの挿絵を数回。A8.若いモノに囲まれてテニスの王子様で活動中。

同年代だったからリアル

里見 今日は、C翼のブームあたりから話をしたいと思うのですが、ここにお集まりのみなさんはそれ以前から活動していらしたんですよね。

わたなべ やっていないです。

里見 あ、そうか。では、わたなべさんだけイレギュラーということで話を進めますが(笑)、C翼以前のジャンルでいうと、たとえば、おぢろう組さんだと「車田」「リンかけ」「ダイモス」「ドカベン」。お町さんだと「ボルテス」「J9」「アクロバンチ」。

今日のメンツの中だと、佐野さんの経験がちょっと異色ですかね。実写ものメインだったというか。

佐野 メインというか、わたなべとやり始めたのが実写というだけで…。「必殺！」なんですけど。

わたなべ でも「必殺！」で本は出でないですから。

佐野 いっしょに本をやり始めたのは「魔王伝」から。

徳川 そうだったっけ!?

佐野 そうなんですよ。ずっぽり同人誌にはまったのが大学生くらいの時なので、70年代末とかのアニメの時期はぽっかり空いているんです。

わたなべ たぶんみんなが「アニメージュ」や「OUT」を読んでいた時期に、私が読んでいたのは「アラン」だったと思います(笑)。

一同 (爆笑)

里見 さて、C翼という“妖怪”が現れ、すべてを呑みつくしていった頃の話なんですが、81年に連載が始まり、83年にはアニメ化。そして、85年にC翼の大波が同人誌界に押し寄せたんですよね。

お町 その頃、宅急便搬入がまだなくて、近くの駐車場から自力で搬入してましたね。

徳川 高3で受験勉強の最中に原稿描いてた記憶がある(笑)。受験の10日前まで描いてて、10日間だけ勉強して、受験が終わったらまた原稿描いてた。

里中 その頃ってみんなすべてをなげうってやってたよような気が(笑)。

へうが うん。

米沢 雰囲気的には急に盛り上がったんですかね。当時の

用語解説

■C翼

当時は「キャプテン翼」を略して「C翼」と呼んだ。作者は高橋陽一。原作は「週刊少年ジャンプ」掲載。80年に読み切、81年から連載開始。88年に連載終了するも、その後もワールドユース編(94年～97年)、「ROAD TO 2002」(01年～04年)と断続的に連載が続いている長寿漫画。ここで話題になっているTVアニメは、83年10月～86年3月まで放映。

■車田

車田正美。まんが家。「リングにかけろ」、「風魔の小次郎」、「男坂」、「聖闘士星矢」等、数々の「熱い」まんがを世に送り出した描き手。作中、美形キャラが数多く登場し、「週刊少年ジャンプ」において、女性ファンを獲得した草分け的存在である。かつてのファンクラブ「神輪会」には、この座談会のメンバーの何人が参加していたりする。

ちなみに、公式Web(<http://www5e.biglobe.ne.jp/~saint/>)のノリもさすがである。

■ダイモス

正式タイトルは「闘将ダイモス」。78年4月～79年1月放映のTVアニメ。長浜忠夫監督のドラマチック・ロボットアニメ(ロマン・ロボットアニメとも)3部作の最終作。出淵裕のメカ・デザイナーとしてのデビュー作でもあり、毎回の「やられメカ」は彼の手によるもの。リヒテルをはじめとする美形キャラが、女子の人気を呼んだ作品である。

■ドカベン

水島新司原作の野球まんが。「週刊少年チャンピオン」で72年連載開始。TVアニメは76年10月～79年12月放映。77年には実写映画化されていたりもする。この作品も、「大甲子園」、「プロ野球編」、「スーパースターズ編」と続編が多数発表されている。同人女性的には、里中智、不知火守といったキャラに特に人気が集まつた。

■ボルテス

正式タイトルは「超電磁マシーン ボルテスV」。77年6月～78年3月放映のTVアニメ。「コン・バトラーV」に続く長浜監督のドラマチック・ロボットアニメ第2弾。この作品もプリンス・ハイネルという敵方美形キャラに女子の人気が集中した。

■J9

今は亡き国際映画社制作のSF・TVアニメシリーズ。「銀河旋風ブライガー」(81年10月～82年6月放映)、「銀河烈風バクシンガー」(82年7月～83年3月放映)、「銀河疾風スライガー」(83年4月～84年1月)からの3部作からなる。源氏のお町の「お町」は、「ブライガー」の登場人物エンジェル・お町から来ている。小松原一男デザインによる男性キャラクターが特に女性受けをしたシリーズで、「六神合体ゴッドマーズ」と共に、「C翼」前史の女性系アニメパロで大きな勢力を築いた。

起爆剤がなんだったのかがよくわからないんですよ。
徳川 その頃作ったコピー本が出てきたので見てみたら、トーキーに「周りの友だちがみんな面白いって言ってハマってきてるから」って書いてあるんですよ。だから、口コミの力は大きかったんじゃないかなあ。

里中 イベントで各校のユニフォーム着てサッカーボール持ち歩いてた人がいっぱいいたのもその頃ですよね。

里見 サッカーボールの持ち込みはコミケでは86年には禁止してます(笑)。

里中 初めて見た時、びっくりして、これはなんのコスプレだろうと思いました。

お町 「C翼」の場合、人気の理由はいろいろあると思うんですが、ひとつは、作家本人の絵よりもカッコよく描ける人たちがたくさんいたということがあると思う。

一同 (爆笑)

徳川 あと、「C翼」より前って、自分の年齢よりも上のキャラクターが多かったんですよ。サンライズの昔の作品に出てくるキャラだって、みんなおっさんじゃないですか。おっさん描こうと思ったって、描けないし、楽しくないんですよ(笑)。

お町 いま見ると20歳くらいに見えるんだけどね(笑)。

徳川 自分のリアルよりもキャラが年上だったから、実感がなかったんですよね。「C翼」はほぼ同年代だったんで、これならわかると思いました。すごいリアルだった。

C翼ブームの加速

米沢 「C翼」の台頭をきっかけにコミケも急激に変わっていくんですよ。あの時の女の子たちが発していたパワーというものはものすごいものがあったわけです。

里中 島中の通路が一方通行になりましたよね。財布を落とした友だちが一方通行だから拾いに戻れなくて、そのまま流れで行かざるを得なかつたことがありました。ちなみに、その時買いに行こうとしてたのは、O.mitさんの本でした(笑)。

徳川 うわー。

里中 おぢろう組を組んで初めてのコミケは、落ちたんですよ。

へうが 初参加は夏だったよね。

米沢 その頃から抽選洩れが厳しくなったんですよ。「C翼」サークルが増えたといつても、一館分は増えてくれなかつたからね(苦笑)。結局、「C翼」ブームに端を発してか、それ以降90年くらいまで急激にコミケは大きくなっていくんですけど、「C翼」ブームの中にいてそれを感じることはありました?

里中 クラス全員の女の子を買うといつてもすごい冊数を買っていってくれた読者さんとかいましたね。

お町 たくさん買ってくれる人が増えましたね。あ、でもあとで知らない土地で勝手に売られていることもあった。

徳川 そうそう! あったあった。

里見 新刊が出る速度が飛躍的に上がったのもその頃で。

自分達でレールを敷きながら走っていた

徳川 それまでやっていたジャンルの友だちがみんな一緒に「C翼」に来たわけではないので、最初は知り合いをイチから発掘していかない状況だったんですよ。それで手紙を出してみたり、少しずつ知り合いが増えていくに従って、そうすると人とお金が集まるようになるから、みんなで本を作つてみようって話になつた。はじめはそんな感じだったと思うけどなあ。

お町 私は社会人の人たちといっしょのサークルだからちょっと事情が違うかな。サークルの人数も8人くらいで多かったので、早いペースで出せてた。

徳川 「C翼」の初期くらいから、乙田基さんとかと知り合って、仲がいい人間が集まつては合宿状態みたいになつてましたね。そこでただひたすら遊んだり、原稿描いたりしてたわけですよ。

お町 そうそう。当時、いろんな人が描いている本がいっぱい出てましたよね。今までいうところのアンソロジーミたいな本。そのブームもあった。

徳川 いちばん最初に「C翼」で売れてた本の系統というのは、そういうものだった気がするんだけど。

米沢 それが85~86年あたりのことですかね。

お町 86年の夏に出した本だと、もう「C翼」の後期なんですよね。

里見 後期! ? 盛り上がりという意味ではその辺がピークなのでは?

お町 いや、だつてもうその頃、うちのサークルで「C翼」やっているの二人くらいだったし。

へうが 中にいる人間にしてみると、そんな印象かも。

里中 うん。

徳川 ちょっと思い出したんだけど、尾崎さんやゆいなさんと知り合つたのって、大阪経由だった気がするんだよね。

お町 名古屋でやつた飲み会じゃない? 2~30人集つてやつたやつ。

里中 小林さんとかが主催したやつじゃないですか。東邦という名前が付いている学校の体育館を借りてオンリーエンターテインメントやつたあの。

へうが 大阪と東京じゃそんなに交流がなかつたりするので、そういうイベントをきっかけに交流を深めたりしてましたね。お互い、本を読んで知つてはいるんだけど。

里見 そういうところで人的交流をしていたわけか。

里中 あとはコーシン出版に行つた時とか(笑)。

お町 東京だとナールとかですかね。

米沢 「C翼」ブームの時は、一般参加者もお祭り気分のような高揚感を味わっていたと思うんだけど、サークル参加者はそれをより強く感じていたのかな。

里中 そうですね。楽しかった。

徳川 楽しかったよね。

お町 みんなで徹夜して、晴海とかでしゃべつているのも楽しかったもん。朝の4時とか5時まで印刷所の社長が本を待つてたのが楽しかった。あれは、「星矢」とかのことになっちゃうのかな。

里見 何時までに会場を出なきゃいけないとか時間の制約がなかった頃ですからね。西館に泊まらざるを得ないスタッフとともに、「ホテル西館」とか言つてたし。

里中 スタッフとホテルにいっしょに帰つたりしたことありましたねー。

里見 あの高揚感は、「C翼」や「星矢」の時だけだったんでしょうか?

徳川 いまはもうないです。あの当時っていうのは、レールが何もない状態で、自分たちでレールを敷きながら走つたようなもんですから(笑)。だから楽しかった。あの頃は自分たちですべてやらなくてはいけなくて、そうやってやつたものは“宝物”になつたわけです。いまは、はいどうぞって手を出すところが多すぎる。いろんな会社が参入して至れり尽くせりだもん。そうすると、“宝物”で

用語解説

■アクロバンチ

正式タイトルは「魔境伝説アクロバンチ」。82年5月~82年12月放映のTVアニメ。いのまたむつの初キャラクター・デザイン作品。これも、美形キャラで人気を得た作品のひとつ。

■必殺!

72年~87年まで放映された異色時代劇TVドラマシリーズ。その後も断続的にTVスペシャルや映画版が作られ、根強い人気を誇っている。正統派時代劇とは異なるピカレスクな内容と、沖雅也、三田村邦彦、中条きよしといった色っぽい俳優たちの活躍に、同人誌でも人気が集まり、一時期は「太陽にほえろ!」と人気を二分した。いずれも、金曜日に放映があったことからこれらのパロディを総称して「金バロ」とも呼んだ。

■魔王伝

菊地秀行原作の全3巻の伝奇小説(86~87年刊・祥伝社・ノンノベル)。菊地秀行の代表的シリーズのひとつである「魔界都市ブルース」シリーズの一作。秋せつら、ドクター・メフィスト、浪蘭幻十といった魅惑的な美形キャラクターが乱舞する作品であり、田中芳樹の「銀河英雄伝説」とともに、その後の小説系パロディの走りとなった。また、同人誌でのブームが、高河ゆん(夜嬢帝国)、佐野真砂輝&わたなべ京(SE NIGHT)、後藤星(アイザックコンプレックス)、といった、サークル主導による「布教」活動によって立ち上がつたという意味で、キャブテン翼後の女性系パロディ同人誌の新しい胎動を象徴した作品でもある。

■OUT

みのり書房刊の雑誌。77年創刊、95年休刊。元々はサブカル雑誌として創刊された雑誌だが、創刊第2号の「宇宙戦艦ヤマト」特集が大当たりしたのを受けてアニメ誌へと衣替え。小出版社故のゲリラ的な読者投稿やパロディが人気を博した。初期の編集・執筆については、米沢嘉博も携わっている。その他、さくまあきら、ゆきまさみなど、この雑誌出身の作家も多い。

■ALLAN

サン出版刊の「JUNE」の後を追う形で80年にOUT増刊として刊行された耽美雑誌。その後も版元・誌名を変えながら復刊・休刊を繰り返している。山田章博のデビュー誌でもある。

■サッカーボールの持ち込み

コミケットへの持ち込み禁止物は、こうして増えていく。例えば、チェーンや銃刀な装身具が規制されたのは、「星矢」が流行つたせい。

■知らない土地で売られている

今でもたまにすることだが、当時は、ネットオークションや同人誌取扱古書店などない時代ゆえ、頻繁にあったこと。

もなんでもなくなっちゃう。

里中 印刷所にこんなのできますか、あんなのできますかってお願いしながらやるのがすごい楽しかったり。

徳川 印刷所の社長もこんなこともできるよーって面白がってくれてたしね。

里中 商業誌でマット加工されたものを見つけて、それをコーチンの社長のところに持っていくて、こんなのやりたいんですって言ったら、社長が尽力してくれて同人誌で使えるようになったんですよ。たぶんそれが初めてマット加工を同人誌で使ったケースだと思うんだけど。

一同 おおー。

へうが こんなのがしたいってこちらからいうと、できませんって断るんじゃないなくて、やり方を探してきてくれることも多かったんですよね。

1日で東京と大阪のイベントを掛け持ち

里見 C翼の台頭以降、オンラインイベントやコミケ以外にも大きめの即売会が登場したりして、作家さんとしては忙しい日々が続いていると思うんですが、そのあたりに関してはどうですか？ 疲れなかった？(笑)

お町 あの頃は若かった(笑)。いまだたら死んでる。

へうが なんであるなことができたんだろうって思うことがたくさんありますよね。

里中 アドレナリンが出まくっていたとしか(笑)。

お町 毎週毎週イベントがありましたからね。

里中 自分のところにもいろいろな人に描いてもらったり、自分たちもいろいろなところで描かせてもらっていたので、ほぼ毎日締切りがあるんですよ。

米沢 年何回くらいイベント出てました？

へうが 何回だろう。私たちはそんなに東京へ行ったりしていなかったので…。

里中 それでも20回くらいかなあ。

お町 1日に東京と大阪のイベント掛け持ちしたこともある。飛行機使って移動して(笑)。

徳川 普通やらないから、それ。

一同 (爆笑)

米沢 年間刊行点数は多いときでどれくらい？

へうが 月1~2冊で、年間でも15冊くらいじゃなかったか

なあ。

徳川 そんなもんだよね。

お町 個人サークルじゃなかったというのは大きいと思いますけどね。

里中 「C翼」だけで87冊出しますね。途中でやめられなくなっちゃった(笑)。

徳川 「トルーパー」の頃くらいまでは、1ジャンルで50冊くらい出すのなんてめずらしくなかったですもん。

お町 コミケ新刊は最低でも3~4冊だったり。

徳川 80ページのマンガ、3日で描く人もいたり(笑)。

お町 昔と今で何が違うって、マンガを描く量が絶対的に違いますよね。今の若い子って8Pくらいのマンガ描いて満足しててる人が増えてる。

徳川 今はさ、昔に比べてマンガ描くの大変なのよ。今は1ページの密度がすごい高い。きちんと描かなければいけない風潮があると思う。昔なんて、殴り書きみたいな結構あったじゃない(笑)。

へうが 描くほうは勢いで描いて、読むほうも勢いで読むみたいな。

里中 しかも「C翼」の絵は描きやすかったし(笑)。

C翼から広がるパロディ

米沢 「星矢」にもその勢いは持続されますよね。「星矢」をやっていた人たちというの…。

里中 「C翼」から流れた人たちもいるし。

徳川 「C翼」に行けなかった人たちもいますね。耽美系の人たちとか。「C翼」には見向きもしなかったけど、「荒木様の絵はステキ♥」って言ってる耽美系の人、結構いましたもん。

お町 若い描き手がわーっと入ってきた印象もあります。間口が広くなったというのがあるのかな。

里見 そういう勢いの中でジャンルの変遷があったわけですが、「C翼」や「星矢」とはちょっと違ったものとして、「魔王伝」のようなサークル主導で人気に火がついで盛り上がったものがありますよね。そもそも「魔王伝」は誰が最初に口火を切ったんですかね。

わたなべ ゆんさん…かな。

佐野 ゆんと後藤さんだと思いますね。私は後藤さんに「面

白いから読んでみて」と薦められてハマったんです。それで本を出すようになって。原作の面白さもあるけれど、末弥純さんの絵も大きかったと思う。

わたなべ 私は佐野さんに薦められたんですが、もともと菊地秀行のデビュー作以来のファンだったという。だから「知ってる？」と聞かれて「知ってるがなーっ」と感じでしたよ(笑)。

米沢 渦中にいなかった人間としては、なんで「キマイラ」じゃなくて「魔王伝」なんだろうという疑問があるんだけど、それはなんでだったんでしょう？

わたなべ んー、菊地作品のほうがエンタテインメント性が高いというか、絵に起こしやすいというのはあったかもしないで。

佐野 作者本人がマンガに傾いていたというか。

里見 カップリングが限定されちゃうというのはマイナスにはならなかった？「C翼」や「トルーパー」だとカップリングの幅に読者が自分の好みを委ねられるという点が人気を支えているひとつだと思っていたんだけど。

佐野 あー、なるほど。

わたなべ 特には思いませんでしたけど…。

里見 そういえば、今日お集まりのメンツは、いろいろとイベントを独自にやってこられた方々でもあるわけで、そのあたりのことをちょっと聞かせてもらいたいですね。たとえば大阪ちゃんちゃんとか。

里中 あー(笑)。あれはC翼のオンラインだと誤解されがちなんですが、オールジャンルのイベントだったんですよ。当日、予想以上に人が来てくれて、TV取材が来てしまったりと大変でした。

へうが 結局、取材はボツになったかで放送されなかっただんですけどね。

里中 あれ以来、自分たちで収拾がつかなくなるようなことはもうすまいと決めて、イベントはやらなくなりました(笑)。描くことに専念したいというか。

A館に金髪キャンギャルが！

里見 SEさんもド派手なことをやってくれた記憶があるんですが(笑)。キャンギャル呼んでましたよね？

佐野 あれはA館に配置されたし、ブーツホルツの誕生

用語解説

■乙田基さん

主にKENT CLUBのサークル名で活動。C翼ブーム真っ盛りのコミケット30の表紙を描いてもらっている。抜群の画力と独特的センスは当時一頭地抜いていた存在。一時活動は中断するも、その後、別ベンチームで「十二国記」「エヴァンゲリオン」等のパロディや商業誌でも活動。

■尾崎さん

尾崎南。NTT、十戒、彼烈火(「かれっか」と読む)、怒悪流(「どおる」と読む)としての活動を通じてのC翼パロディブームの最大の牽引役の一人。「若嶋津健×日向小次郎」というカップリングは、彼女の存在なくして語れない。その後、商業誌でも「健×小次」のモチーフをそのままに生かした「絶愛」「BRONZE」を、集英社の「マーガレット」で連載し人気を博す。一時、同人誌活動を中断していたが、近年はKruezというサークル名で、商業誌のサイドストーリーの他、「め組の大吾」、芸能パロも手がけている。

■ゆいなさん

藤置ゆいな。乙田基との合同サークルハットトリック連合等で活動した後、尾崎南と十戒、彼烈火のユニットを結成。

■小林さん

小林昭夫。C翼以前は、薔薇色曲馬団のサークル名で「スタートレック」「ファントム無頼」などで活動。C翼以降は、M.B.パリケーションのサークル名で様々なパロディに関わる、息の長い作家。

■小林さんとかが主催したやつ。

正しくは、嶋津裕(向日葵バラダイス)が86年に名古屋で主催したC翼オンライン即売会。「キャプテン翼」では、主人公である大空翼たちの学校が南葛で、ライバルである日向や若嶋津の学校が東邦なわけだが、当時嶋津裕の通う短大が東邦学園という名前であったため、受け狙いで母校の体育館で開催した即売会(嶋津裕当人談)。

■コーシン出版

当時、多くのC翼パロディの大手サークルが利用していた印刷会社。本文通り、この頃のサークルの印刷技術への挑戦をサポートした印刷会社のひとつ。現在も同人誌印刷業界における有力な一角を占める。

■ナール

ナール印刷。同人誌印刷では草分け的存在。

■トルーパー

正式タイトルは「鎧伝サムライトルーパー」。「聖闘士星矢」のヒットを受けて、ロボットアニメの雄サンライズが作ったヒーロー物TVアニメ(88年4月~89年3月放映)。主人公5人の声優の人気も高く、NG5というユニットが作られた。「C翼」「星矢」と統いた女性系同人誌の盛り上がりは、この「トルーパー」で一つのピークを迎えることとなる。

日でもあったのでせっかくだからA館でしかできないことをしようと思ったのがきっかけです。一応、やる前に里見さんにやってもいいか聞いて「いい」と言ってもらったことが大前提にあるんですけどね。

わたなべ A館が異様に広かったじゃないですか。スペースを使わない手はないなと思って。

里見 そのネタでマンレポすごい来たもん。最後尾札を金髪でハイレグのおねーちゃんが持っているというのは、そりや衝撃的ですよ。

わたなべ A館に入ることになった時に、注意事項に最後尾札を持つ人を用意してくださいとあったので、F1だとキャンギャルが札持っているよねーって(笑)。

佐野 そうそう。

わたなべ じゃあ、やってみようかと。

佐野 モデル事務所に知り合いがいる友達がいたので、その子にお願いしたらすぐに手配してくれたんです。

お町 来てくれたのもそのお友達?

佐野 当日来てもらったのは外人モデルさんたちなんですけど、モデルさんだからどんな服でも着てくれるだろうと思って(笑)。

わたなべ 配布物配ってもらったりもしたんですが、慣れてきたら買った本を袋につめてくれたりしてましたね。

佐野 列整理したりね(笑)。

里見 日本語が通じないというのが困ったんですが。

佐野 少しはわかるんですけどね。

わたなべ でも見ているうちに大変そうのがわかったのか、梱包から本取り出してくれたりもしました(笑)。

佐野 日本人のモデルさんは呼びたくなかったんですよ。そこでリアルになりたくなかったというか。本当はブー＆シューも呼ぼうと思っていたんですが、モデルのパンフレットを見てもカッコいい人がいなくて、ブサイクな人を呼んだらみんなに怒られると思ってやめたんです。

一同 (爆笑)

佐野 それなら女の子だけにしようって。

わたなべ A館のスペースをピットに見立てて、サークルスタッフも同じ衣装で、チームの旗も作りましたねー。

佐野 旗は防火対策しないとダメということで、防火布使ったんですが、高くてびっくりしました。

徳川 そうそう。あの頃そういうことするとめちゃくちゃお金かかったんだよね。

佐野 かかったー(笑)。でもせっかくのコミケなんだからというのが大きかったです。

徳川 自分たちがやるだけじゃなくて、周りがそういうのやってるのとか見てのも楽しかったんだよなー。

一同 (同意の声)

里見 いまは、目立つことやると「イタイ」って言われたり、余計なツッコミ入るからね。

お町 ネットで叩かれたりするから、派手なことがしにくいのかと思いますけどね。

佐野 自分たちで規制し始める人もいるんでしょうけど。

お町 何よりも人の噂が怖いのかな?

徳川 叩いてる連中は暇持て余してんのかもな。だって他に夢中になれるものがあったら、そんな他人のこととやかく言ってるヒマなんてないもん。

一同 (笑)

里見 以前はあまり見なかったものとして、同時期に複数のジャンルの本を出すサークルがあると思うんですが。

徳川 昔は、あれもこれもそれもって手をつける必要がなかったんですよ。

お町 「星矢」の時は「星矢」に夢中。「トルーパー」の時は「トルーパー」に夢中だった(笑)。

徳川 昔も、気分転換にほかのジャンルをやる人もいたけれど、それとひとつのジャンルに夢中になって集中することなく、あれもこれもやるのは違うと思うし。当時はジャンルに対する集中度が違ったんだと思う。

お町 当時はいまよりも1ジャンルという意識が強かったこともあるし。

徳川 あれもこれもやるというのは、最近の気質なんじゃないかなと思いますけどね。あと、これが流行っているからやるみたいなのって昔はなかったし。流行とか関係なく、自分が好きなカップリングとか本がないから、それじゃ自分が描いてやるわって感じだったんですよ。

お町 ないから、描く、ですよね。その時の時流のカップリングが好きだったら、本作らないですよ。読んでればいいんだもん。ないから描くし、本作ったって感じ。

米沢 「魔王伝」もそんな感じ?

佐野 「魔王伝」に関しては、結構自分は外にいる感じで、自分たちが盛り上げたという感覚は実はあまりないんですよ。どちらかというと、こんなに読んでくれる人がいるんだって驚きながら描いてましたね。

徳川 やっているジャンルは違うけれど、「魔王伝」の本買っている人が私の周りにもいっぱいいたけど、昔はそういう人たちも多かったですよね。このジャンルしか描かないけど、いろんなジャンルの本は読むという。

里見 最近は、ひとつのジャンルしか読まないという人もずいぶんいますからね。お目当てのジャンルの本を買ったら帰る人も結構いるし。そこだけで手一杯になるほど大きなジャンルができてしまったというはあるかも。

お町 最近の話で言うなら、商業誌感覚で同人誌を買う人が増えた気がします。お金を出しているんだから、もっと描け、みたいな感じというか。こっちにしてみれば、仕事じゃないぜと思っていても、向こうにしてみればもう感覚から違うんですね。コミックスに近い。

商業誌へのスタンスいろいろ

里見 商業誌といえば、今日お集まりの皆さんはそれぞれ商業誌活動とのスタンスが違って面白いんですが、たとえば、お町さんは投稿して少女まんが誌でデビュー、佐野さん・わたなべさんは同人誌活動をきっかけにマニア誌から、里中さん・へうがさんは声がかかった時だけやる、徳川さんはよほどのことがない限りやらない、と。

お町 私は就職活動の一環で投稿したようなもんです(笑)。当時は「トルーパー」で気がふれたように本を出していた時で、投稿したことすら忘れてたんですけど。

米沢 佐野さんたちは、出版社から声をかけられなかったら商業誌でやるつもりはなかった?

佐野 声をかけられたからやってみようかなと思ったというのありますね。

わたなべ 最初はオリジナルでやっていた「TWIN」を出さないかと言われたんですよ。それは嫌だ、と。あれはやっぱり同人誌でやっているので、それをそのまま商業誌へ持っていくのは嫌だったんですね。で、違うものを描いてデビューして、まったくやっています。

米沢 みなさん、同じマンガを描くという行為でも、商業誌と同人誌では違うと思ってやってます?

わたなべ ああ…はい。

佐野 私たちは違うと思ってやっていますけど…。

わたなべ 同人誌はやっぱり好きなものをやっていると

用語解説

■星矢

正式タイトルは「聖闘士星矢」。まんがは車田正美作(86年～90年「週刊少年ジャンプ」掲載)。TVアニメは86年10月～89年4月放映。ちなみに、91年には、海皇ボセイドン編のミュージカルが、SMAP主演で上演されている(星矢が中居、ボセイドンがキムタクという役回り)。近年冥王ハーデス編のアニメ化等の展開が再び行われてもいる。

■荒木様

荒木伸吾。「ベルサイユのばら」「ダンガードA」「グレンダイザー」などで華麗なキャラクターで人気を博したアニメーター。「星矢」が女性受けした理由も、彼の手による美形キャラの魅力に依るところも大きい。

■ゆんさん

高河ゆん。「ライライ」では、主にきつねプロジェクト、おてんと村、「C翼」ではCLUB/Y、「星矢」「魔王伝」では夜姫帝国、その後は、INSIDE EDITON、九重というサークルで活動。商業誌では「アーシアン」「源氏」「LOVELESS」等々。80年代後半における女性系のパロディの第一人者だけでなく、少女まんがの絵柄の新しい波を引き起こした作家と言える。

■後藤さん

後藤星。アイザックコンプレックスのサークル名で「ブライガー」「魔界都市シリーズ」などで主に活躍。商業誌では「龍と魔王使い」(榎木洋子)、「富士見二丁目交響楽団シリーズ」(秋月こお)、「なんて素敵にジャバネスクシリーズ(新装版)」(水室冴子)などのイラストも手がける。

■末弥純

イラストレータ。栗本薰「グインサー・ガシリーズ」菊地秀行「魔界都市シリーズ」、のイラスト、「ウィザードリィ」のモンスター・デザインなどを担当。

■キマイラ

夢枕獏の伝奇小説シリーズ(朝日ソノラマ刊)。

■大阪ちゃんちやかちゃん

87年7月に大阪で開催された同人誌即売会。

■SEさん

SE NIGHT。佐野真砂輝&わたなべ京のサークル名で、こちらの方が汎用的に使われている。CRY MAXは「サイバーフォーミュラ」パロディでのサークル名。

■A館

晴海の国際見本市会場の一館。幕張メッセから晴海に戻ってくる際、大手サークルの列を流す場所を確保するため、大手サークル40サークル弱のみを配置した場所。本書の別ページ参照。

■ブーツホルツ

近未来でのカーレースTVアニメ「新世紀GPXサイバーフォーミュラ」(91年3月～12月放映)のキャラクターの一人。

いう意識が強いですから。

佐野 商業誌って縛りが絶対あるから、描けないものも出てくるし、出版社側が描かせたいと思うものもあるし、やおいにしたって、どこまでやっていいのか考えるところはあるし。そういう意味では自分たちの中で商業誌と同人誌の境界はわりとはっきりとありますね。

米沢 以前は、商業誌デビューすると同人誌活動をやめる作家さんたちが多かったけれど、90年代前後からは両立する人たちが圧倒的に増えましたよね。出版社側が同人誌界から人材を見つけるようになったというのも大きいとは思うんですけど。

お町 私がお仕事している出版社さんで、同人誌活動をやって原稿を落した作家さんはいないと思います。それは絶対にありえない…というか、やってはいけない事だからです。編集側から仕事をたくさん依頼される作家さんは、同人誌活動をしている時間もないと思うし。私の場合、仕事第一で、同人誌はあくまで余暇で時間がある時の趣味活動です。

商業誌をやらない理由とは？

米沢 編集者に同人誌活動をやめるよう言われたことは？
お町 ないです。ただ1回だけ、コミケのカタログの表紙を描いた時に「同人誌やってんじゃねーよ」と突っ込まれた事はあります。でもこれカタログの表紙で、同人誌とはまた違うし、原稿料も貰ってないと言ったら終わりました。必ずマジメに〆切守って仕事してるので、見逃して貰ってる気がします。

佐野 私たちは、編集者が同人誌を容認し出した切り替えの時期にデビューしたような気がしますね。

里見 徳川さんも相当声をかけられているクチだと思うんですが、どうして商業誌でやらないんですか？

徳川 だって、人から口出されて描かなきゃいけないのやだもん。

一同 (爆笑)

徳川 仕事でやることになると、どうしたって“マンガ”という枠の中でやらなくちゃいけなくなるじゃないですか。お仕事もらえれば、時間的制約も発生するし。マンガ以外のものに目を向ける時間もなかなかなくなっちゃうんで

すよ。私は新しもの好きなので、いろいろと試してみたいし、好きに時間を使いたいんですよ。私が使う時間は私が決めたい(笑)。

コミケは特別、ハレの場

米沢 えーと、そろそろまとめなくてはいけない時間になりました、最後にちょっとお聞きしたいんですけど、みなさんにとってコミケとはなんですか？サービスがてら魅力について語ってもらえると(笑)。

お町 昔から一環してコミケに感じている魅力は、自由なところだと思っています。商業誌だと売れなければ発表することができないんですけど、コミケはどんなジャンルでも受け入れ可でNGがないことがいちばんの売りだと思います。どんなことを表現しても許そうとする姿勢がある、そういう場じゃないかなと思います。

へうが ほかのイベントは企業になってきているけど、コミケはスタッフも参加者も同人誌が好きでやっている感じで、ほかのイベントはサークルとして信頼がおけない何かを感じてしまうことがあるんですが、コミケにはそれがない気がします。安心して参加できます。

里中 ほかのイベントだとお金儲けが目当てな気もするし、参加費が高かったりして、スタッフ側もちゃんとやってくれなくちゃ困ると思うことも結構多いんだけど、コミケの場合には、スタッフさんたちがボランティアでやってくれていることもわかるので、たいていの言うことは聞こうと思います(笑)。コミケには新刊を出そうと思うし。最近の若い読者さんからコミケとほかのイベントは何が違うんですか、どうしてコミケだけはいろいろ出すんですかと聞かれたんですよ。でもねえ、それは日本人がお正月を大事にするみたいなものですから(笑)。コミケは特別なんです。もうしようがない。

徳川 コミケとほかのイベントにははっきりとした線引きがありますよ。たとえて言うなら、クリスマスのデートを蹴ってでも参加するのがコミケ(笑)。ほかのイベントだったらデート優先ですよ。その違いは、自分だけでなくてほかの人たちにもあると思うなあ。

お町 わかるわかる。いまの若い子たちがコミケとほかのイベントとの間にあまり違いが見出せていないとしても、

それは旧き良き伝統のように受け継いでもらいたいと思いますね(笑)。

徳川 ただ、歴史があるサークルにとっては、コミケはたくさん人が来てくれるイベントだけど、一般参加者が多すぎることで普段のイベントよりも人が来ないサークルとかもあるからね。一概に善し悪しは言えないとは思うんだけど。

佐野 私たちが参加し始めた頃のコミケといまのコミケでは違ってしまっていると思うんですが、商業誌が縛りがあってできないことを同人誌ではやれる、なおかつコミケって好きなことがやれる場のような気がして、参加させてもらっている感じがあります。お祭りに参加しているようなコミケ独特の高揚感もあります。それは、タイムリーにハマっているジャンルのオンラインにでも出ない限りもう感じられないものなので、やっぱりほかのイベントとは意識的に違いますね。

わたなべ うん、そうです。私にとってコミケはいつまでもハレの場なので、特別なままだと思います。

里見 ジャ、本当の最後に、今後の自分の同人人生について一言どうぞ(笑)。

お町 死ぬまで同人。

一同 (爆笑)

徳川 「年寄りが抜けねーから抽選率が上がんだよっ」って言われても。

へうが 参加し続けますねえ。

里中 健康に気をつけて、細く長く(笑)。

徳川 いつまでもどんなことでもいまあるものを面白がれるのがわかってきたので、最近60歳までやれる気になりました(笑)。体力的な衰えはありますが、実働部隊が若返ってくれればいいことなので(笑)。

佐野 描きたいものがある限り、いつまでも参加してるんだろうなと思いますね。

わたなべ みなさんと同じ(笑)。

徳川 体力より気力の問題だから。

わたなべ 気力で体力をカバーしてますよね。描きたい気持ちがある以上、やっちゃいますよ。

一同 (賛同の声)

米沢 長のおつきあい、ありがとうございました。

聞き手・米沢嘉博/里見直紀(コミケット準備会)

用語解説

■「いい」といってもらったことが大前提にある
面白くて、一般参加者や周りのサークルに迷惑がかからず、コミケの理念的に反してなければ、今でも企画を受け入れる用意はあります(里見談)。

■最後尾

混雑している会場内でも、行列ができるいるサークルの列のどこに並べばよいかわかりやすくするために、行列の最後尾に目印として持たせている。列を途中で分断した場合は、「最後尾ではありませんね」というのを、切った列の最後に持たせることもある。

■F1

日本全体がバブルのこの頃、同人界でもF1が流行、アイルトン・セナはもちろんのこと、当時は、ロータスにいた、ジョニー・ハーバート、ミカ・ハッキネンのカップリングも人気があった。

■ブー&シュー

「サイバーフォーミュラ」パロディでは、加賀×ハヤト、グーデリアン×ハイネル、新条×加賀などともに、ブーツホルツ×シューマッハ(略して「ブームシュー」)は有力なカップリングのひとつだった。

■あの頃そういうことするとめちゃくちゃお金がかかった

ちなみに、徳川さんは、鳥羽笙子さんたちと伊達征士(「トルーパー」のキャラクター)の誕生日祝いをコミックシティでしたことがある。紅白の幕を張り、お祝い饅頭を配ったり、鏡割りをしたり、愉快な遊びだった。

■TWIN

SE NIGHTが同人誌で発表したオリジナルシリーズ。商業誌デビュー後もシリーズは継続し、同人ドラマCDもリリースされている。

■コミケのカタログの表紙を描いたとき

コミケット44の表紙。

■私は新しもの好き

例えば、徳川さんは、女性系パロディ作家では、かなり早い段階からCGに取り組んでいた。

■クリスマスのデートを蹴ってでも参加するのがコミケ

幕張開催の頃は、まさに冬のコミケットはクリスマス直撃。それ以降は、年末開催が基本となっている。日にちがずれていればデートできるだろうとは思われるかもしれないが、そこは入稿明けで人でなくなっていたり、ヒドイ場合は入稿が終わっていなかったり、コピー本を作っていたりするので、結局はデートを蹴るハメになりがち。

作家座談会

美少女・セラムン

座談会 part4

- Q1. 同人誌を知ったのはいつ？ どうやって？
Q2. 初めて同人誌を作ったのはいつ？ その時の感想は？
Q3. コミケットを知ったのはいつ頃？ どうやって知りましたか？
Q4. コミケットに初めて来たのはいつ？ その時の感想は？
Q5. ベンネームとサークル名の由来は？
Q6. 今までのジャンル歴史は？
Q7. これまでの商業ベースでの活動歴を教えてください。
Q8. 最近の同人活動について教えてください。

門井亞矢 当時のサークル名／冗談じゃないよっ！



A1. 中学生の時。たぶん友からの入れ知恵。
A2. 高校生の時。C翼のA5の黄色いスミ色本。楽しかったな（遠い目）。A3. 中学生の時。たぶん友からの入れ知恵（同人＝コミケだったと思う）。A4. 中学生の時。A5. サークル名はビートたけしのギャグ。A6. C翼（サークルではなく買手でイベントへ）/C翼・トルーパー・星矢（月に3回はイベント参加・地方にも行ってた）→ジャンルは定まらず放浪期→セラームーン（夏冬のコミケ・Cリボン・大きいCity・地方も含む）→ゲームとオリジナル（夏冬のコミケのみの参加）A7. C翼・トルーパー・星矢のアンソロジー本+時々オリジナル漫画→セラームーンのアンソロジー本+時々オリジナル漫画→ゲーム原画とオリジナル漫画とオリジナルのイラスト。A8. 夏・冬のコミケにあわせてのみの活動になってます。

新田真子 当時のサークル名／UNION OF THE SNAKE



A1. 高校生の時雑誌OUTTE。A2. 1982年頃のA5コピー一本。室内手工業みたいで面白かった。今でも同じ。A3. 1982年頃、大学の漫研で。A4. 横浜の時。吾妻ひでおの本がほしかったの。人が多い、にぎやか、なんだかよくわからない、本がいっぱい。A5. 学漫では他のベンチームだったがここはひとつ今までの自分は死んだつもりになってしまって、しんだまね。なるべくフツーの漢字をあてて新田真子。サークル名は当時好きだった「デュラン・デュラン」の曲UNION OF THE SNAKEから。A6. 1983年からジャンルは婦人警官（イヤ、マジで）。彼はマイナーなアニメキャラや適当なオリジナル、ストリーミングのころからゲーム本（エロ）がふえたのを覚えている。基本はエロ。今でも変わらない。A7. 1983年にレモンピープルでデビュー。そのあとあちこちのマイナー誌であれこれいろいろとしゃ言いようが…。現在商業誌は休筆中。A8. 昨年はじめてオンライン系イベントに出ました。コピー誌作って面白かった。新鮮な気持ち。

うたたねひろゆき 当時のサークル名／UROBOROS



A1. ファンジングの存在は、アニメ誌の記事。同人誌としての認識は漫画専門誌のコミケ特集で高校時代。
A2. ゲスト参加は大学時代。自分の本は1990年UROBOROSを名乗ったのが初。就職していたので、時間をひねり出すのが地獄でした。A3. 雑誌記事で高校時代。当時は2000サークル超えや、はないもんめで大騒ぎでした。A4. 「ラビュタ」公開時。新館2階でミニイベントがあった記憶が…サウナ状態と酸欠で、ラビュタ（ジュース）片手にしゃがみこんでいたような？ A5. 当初は「一二三四五」でした。画数の多い名前が流行っていたので、誰でも読める漢字で読みやすい名前をと。サークル名は幻獣好きだったため。A6. UROBOROS以前は創作系でもっぱらゲスト。以降は男性向。A7. バンダイ、朝日ソノラマ系アンソロジー、角川メディアオフィス、メディアワークス。現在は講談社、集英社。A8. マイナーネタばかり描いている気がします。

たつねこ 当時のサークル名／炬燵屋



A1. 高校終わり頃……。
A2. 大学2年くらい……？ エロ本でした。トーンで高ければ……。
A3. 大学入りたての頃、当時所属してた高橋留美子系サークルの人から…だったかと。
A4. 記憶ナシ。
A5. 高橋留美子系FCに所属していた時のPNが『こたつねこ』だったので。
A6. 一直貫してエロ本。ジャンルはその時その時のマイ流行で時流はあんまり見てなかったかも。
A7. 記念すべき初商業誌はマイアニメ（廃刊）、その他アンソロジー等。まだスクウェア・エニックスじゃなかった頃のGファンタジーで初の長編連載、現在はゲーム誌とマンガ誌に一本ずつ。
A8. 同人活動は休止中。

むっちりむうにい 当時のサークル名／木鳥っ子合唱団



A1. 学生時代、すでにサークル活動をしていた友人に見せてもらっています。びっくり（笑）。A2. 学生時代にコピー本を作りました。同人誌って、おもしろいなあと思いました。A3. やはり当時、活動していた友人から話を聞いて知りました。A4. はじめでは多分晴海です。いろいろなジャンルがあって色々と見たりました。A5. 当時のあだ名がそのままP.N.に…。むうにいは語呂がよかたので追加されました（笑）。サークル名は当時のおかし名に語呂のいい合唱団を追加しました。A6. 最初は合同サークルでしたが、相方が同人活動が難しくなり、1人で続けていましたが、結局1人サークルとなり現在に至ります。ジャンルは、大ざっぱに分けますと…よろづ→星矢→よろづ→シラト→よろづ→セラムン…ってトコでしょうか。A7. そんなに活動してないです。A8. セラムンメインのよろづです（笑）。ふりだしに戻ってますね。

同人誌とコミケとの出会い(男子編)

米沢 このパートは、大体80年代末ぐらいから「セラームーン（セラムン）」あたりまでの時代を代表する方々に集まってもらいました。幕張への移転や有害コミック規制の問題、晴海のA館体制など、さまざまな出来事が起こっていますが、それはおいおい話していただくとして、同人を始めたきっかけとか、コミケ初参加の印象から始めましょうか。最初は、このメンバーの中では大先輩ということで、新田さんから。

新田 横浜の時って何年でしたっけ？

米沢 第18回だから1981年ですね。

新田 そのときに初めて参加したんですよ。ジャンルは学漫で。当時、横浜に住んでたので、日大文理漫研のみんながウチに泊まって出かけていった。そのころ、吾妻ひでおのファンだったんですよ。で「OUT」を見ると、本屋で買えない吾妻ひでおの本が出ていると載っていた。それでコミケに行ってみるか、と。

米沢 「ミヤア官」ですね。並んだの？

新田 並んだんじゃないかな、たしか。

米沢 あのときは1600冊刷って、1人1冊限定でやったんです。それでも6時間丸々かかった。

里見 今だったら準備会スタッフが注意してる（笑）。

米沢 るんるんコネクションはいつから？

新田 それも学漫つながりなんですよ。友人とこれは面白いから我々も本を作ってみよう、どうせ出すなら好きなアニメの本を出してみようってことで始めたんですね。

米沢 四半世紀前だね。

新田 ああ、そうか（苦笑）。それで、るんるんコネクションでファンジングを何回か出た後、83年冬のコミケで「UNION OF THE SNAKE」で個人誌を出したんです。

米沢 それは個人誌でやろうっていうこと？

新田 そうですね。描きたいものを描いたら、そうなつていった。

米沢 まだ「ロリコンブームの時代」だよね。

新田 そうですよ。やっぱり、吾妻ひでおがいなかったら、漫画を描いてなかった。

米沢 次は、たつねこくんかな？

用語解説

■セラムン

「美少女戦士セーラームーン」。漫画は武内直子作。91年12月～97年2月まで「なかよし」にて連載、同誌の部数倍増（200万部とも言われる）の原動力となる。92年3月～97年2月まで、5期に渡って放映されたTVアニメで、世間的にも、同人誌界的にも、ブレイク。「月に変わっておしおきよ！」の決めゼリフとポーズが大流行した。また、俗に「セラミュ」と呼ばれるミュージカルにも人気があり、独自のファンも開拓し、アニメや漫画終了後も公演が行われている他、03年10月～04年9月まで、実写版のTV放映も行われた。同人誌的には、C翼以降の拡大の中で、同じ作品に男性系サークルと女性系サークルが、いっしょにハマることはない、という「常識」を打ち破った作品である。

■日大文理漫研

日大は学校の規模が非常に大きく、キャンパスもたくさんあるため、サークル活動が、学部単位になってしまっている。この時期の日大文理漫研は、新田真子の他、鴨下幸久（このどんと）、所沢わるつといった人材を輩出している。ちなみに、日大芸術学部には、「熱血漫画根性会（ねまこん）」という漫研があり、こちらは、青山剛昌、あべゆたか（ロケット兄弟）などがOB。

■吾妻ひでおのファンだった

ロリコン・美少女の作家座談会参照のこと。新田さんも語っているように、この人のファンになったせいでの人生を誤った人が多…（以下、自主規制）。

■ミヤア官

「ミヤアちゃん官能写真集」。吾妻ひでおが自作の「スクラップ学園」に登場する猫山美亜（ミヤアちゃん）をネタにして出した伝説の同人誌。初期の男性向け同人誌の歴史を語る上で、「シベール」等とともに必ず扱わねばならない本である。ロリコンブーム華やかなりし頃は、高額のプレミアが漫画古書店でついていた。84年には秋田書店から商業出版もされている。

■1600冊刷って、1人1冊限定でやったんです。それでも6時間丸々かかった。

別段、いわゆる「牛歩」（ワザと列を作るために販売をゆっくりすること）をしているわけではない。いかに近年のコミケットにおいて、大半の人気サークルが手際よく列をこなしているかがわかる。



用語解説

■南館に混雑する12サークルだけ集められた

コミケット40のこと、南館1Fの左右に6サークルずつ配置。混雑緩和のための非常手段であり、ジャンルに依存することなく、自力で一般参加者を集められるサークルをチョイスしたため、男性向サークルからもUNION OF THE SNAKE、炬燵屋が選ばれた。ちなみに他のメンバーは、以下の通り(混雑緩和のため、特例として複数曜日の参加を認めていたため単純計算では数は合わない)。なお、次のコミケット41では、南館1Fの半分が、おせち料理の詰め込み作業で借りられなかったため(これは、年末開催の晴海の冬コミケでは恒例)、6サークルのみで同じ体制を取ったが、この時もUNION OF THE SNAKE、炬燵屋が入っている。逆を言えば、当時の両サークルへの支持はそれだけ高いものだったのだ。とはいっても、南館は入口が非常に狭く、行列の管理が非常に難しいこともあり、この2回のみで、南館での特別配置は中止となり、その後は、普通にサークルが配置された。

- 尾崎南[怒悪流]
- えみ子山・くり子姫[えみくり]
- かちとみさる(高口里純)[ごめんね商会]
- 萩原一至[STUDIO LOUD IN SCHOOL]
- 高野宮子[P-KooDoo]
- 高河ゆん[INSIDE EDITON]
- 橋水樹・櫻林子[紫宸殿]
- Mr.黒猫[宗教同人天の道教團]
- 伊達皆無(橘皆無)[来夢カンパニー]
- 田村みゆき[Yarow Co.]
- 鳥羽笙子・富樫ゆいか(松岡なつき)[光輪騎兵团]

■戸山優

ライター・編集者。同人誌「別冊アニメ」美少女愛好家のために「や徳間書店の「アップルパイ」美少女まんが大全集」を皮切りに、大学在学中よりライターとして活躍しており、伝説のロリコン写真雑誌「Hey! Buddy」(白夜書房)にも参加している。阿島俊と並ぶ同人誌評論家の草分け的存在で、特に「ロリポップ」(笠倉出版社)で長く同人誌紹介コーナーを担当。編集者としては、フェアリーダストでくりいむレモン関係のFC会報や書籍・ムック等の編集を行ったり、「ビザールコレクション」「シーメールコレクション」(共に白夜書房)等を企画・編集している。「YOUNG HIP」(ワニガジン)の編集長も務めた。

■TEA TIME

「同人まんが傑作選」としてオーエスピー出版/白夜書房から刊行された美少女コミックアンソロジー。

■Malt's

NOUVELLE VAGUEは、本のタイトルにビールの銘柄を付けていた。「Malt's」の他に「Dry」「Draft」「Fine Draft」(「Draft」の改訂版)。Hマンガで大反響を呼んだのは「Draft」。

たつねこ コミケで思い出すのは、南館に混雑する12サークルだけ集められたことですね。そのときはもちろん女の子全盛の時代ですよ。で、男性系で、ウチと新田さんだけがその中に入れられた。女10サークルで、男2サークルなんて、客なんか入ってくるわけないじゃん!

新田 ああ、思った思った! ふざけたことしやがってって(笑)。

たつねこ で、準備会側にどなりこんだら、イワえもんとか里見さんとかに「ごめん」って言われて肩たたかれて……「それで終わりかよっ!」っていうのがありましたね。あれが一番ひどかった。

米沢 で、人は来たの?

たつねこ 来たことは来たんですけど、序盤、結構暇でしたねえ。

米沢 最初にコミケに来たのは?

たつねこ 大学が推薦入学だったんで、春頃暇だったんですよ。で、「アニメージュ」を読んでて、ファンサークルに入ってみようというんで、高橋留美子ファンサークルに入ったんですよ。そのサークルの仲間——結局その人と、サークルを立ち上げるんだけど——につれていてもらったのが最初かな。……あ、その前に1回ありましたね。銀座からものすごい人が流れていくんで、その人たちについていけば行けるだろうと思って、歩いていたら、勝鬨橋を渡り始めたあたりで「ちょっと待って、この先にあるの!?」って(笑)。

米沢 それから自分のサークルを立ち上げるのが、80年代の終わりくらい?

たつねこ そのくらいかな。幕張に行く前にはありましたね。ウチは晴海、幕張、晴海で終わってますから。

米沢 次はうたたねさん。

うたたね 私は90年が「UROBOROS」での初参加ですね。

幕張メッセのときでした。

米沢 その前にもあったよね?

うたたね 「NOUVELLE VAUGE」ですね。

米沢 あちこちの本で取り上げられて、結構話題になりましたよね。

里見 88~89年くらいかな。

うたたね あれは同人誌がちゃんと出る前に、同人誌系のアンソロジーに作品が載ったんですよ。もともと創作系のサークルとして知人と3人で始めるはずだったんだ

けど、アンソロジーにHマンガが載ってしまったんで、たぶんそれを求めてくる人がいるだろうからということ(苦笑)、急遽描いたのが晴海の春のとき。

里見 春というと、89年の春か。

米沢 アンソロジーってのは美少女コミックアンソロジーみたいなの?

里見 戸山(優)さんがやってたやつかな。

うたたね そうそう、「TEA TIME」。

米沢 そのあとすぐに個人サークルに?

うたたね いや、そのあと創作の本を1回はきちんと出そうということで「Malt's」を出して。それから、就職したあとにUROBOROSを立ち上げました。

米沢 じゃあ、それまでは創作同人誌で、パロディとかはあんまりやらないって感じ?

うたたね やっぱり、人様に顔向けできないもんは描けないんじゃないかなと思ってましたね。

一 同 (笑)

うたたね 描いてしまったらもう、求められるもそっちの方なんで、そちらに行くしかないか、と。

米沢 最初にコミケに来たのはサークルとしてなんだ。

うたたね いや、一度一般参加してます。ただそれも遅くて、大学3年のときかな。それまでは金がなくて来られなかつた(苦笑)。あの地獄の新館のとき、新館2階で暑さにあてられて座り込んでましたね。

小川 86年ですね。

うたたね うん、「ラピュタ」のイベントやってて(笑)。ただ、レヴォ(コミック・レヴォリューション)は1回目から行ってるはず。そこで初めて「UNION OF THE SNAKE」の本が買えた!

一 同 (笑)

同人誌・コミケとの出会い(女子編)

米沢 門井さんは何年くらい?

門井 今聞いてて、同人自体の流れが違ってるなって思いました。女子の方にいたんで(笑)。

むっちり 女性ってデビュー早いですよね。

門井 86年の冬コミからサークル参加してるんですけど、その前に、小さなイベントに参加したのが最初のサーク

ル参加で。そのときは「C翼」です。ただ、コミケに初めて行ったのは中学のとき。……なんで行ったのかというと、新田さんの話を聞いていて思い出したんですけど、私も中学のとき「OUT」を読んでたんですよ。たぶん、それ(笑)。

たつねこ 「OUT」自体は俺も読んでた。

うたたね この世代はみんな読んでるでしょ(笑)。

門井 小学校の終わりくらいから「ガンダム」に思いっきりもう傾倒して。次は「ブライガー」が来て。その後しばらく離れていたんだけど、友達が学校に同人誌を持ってきて、それで「C翼」にはまっちゃった。「ブライガー」のときは凰巳乱さんの絵がすごい好きでしたね。

里見 「死んでしまえ」ですね。

門井 そうそう。

米沢 あの頃カラー表紙の同人誌初めて見たよ。

里見 あの辺がはしりですから。

門井 そう、まだ(ほとんどは)モノクロでしたよ。

米沢 男の連中ってずいぶんあとまでね、粗末な本でしたよね。

たつねこ 申し訳ない。

一 同 (笑)

門井 女子の方から「セーラームーン」で(男性向けジャンルに)移ってきたじゃないですか。そのときに本を見て「うわー」って思いましたね。

一 同 (笑)

米沢 コミケに最初に来たときの印象はどう? 「C翼」だと女の子もずいぶん多かったです。

門井 あ、「C翼」のときはパラダイスでした(笑)。

米沢 その辺、新田さんはロリコンから「C翼」に移った時代をどう見てたの?

新田 全然知りませんでした(笑)。自分がやりたいことをずっとやってたんで、人が何をしてようが、それはそれ、と。

門井 逆に、あっちのジャンルのことをこっちは全然知らない。

むっちり ですよね。

新田 もう、いくつか館が分かれ始めたころで、直接見ないから向こうが何やってるかよくわからない。

門井 お互いに、風呂屋の向こうは見えない(笑)。

新田 だから南館にやられたときに、「なんてことしてくれたんだ!」って。

一 同 (笑)

たつねこ 昔は垣根がありましたよね、「セラモン」までは全然別物。

米沢 最後はむっちりさん。最初に来られたのは?

むっちり 一般参加で、友だちのサークルを訪ねていったんです。年は覚えてないんですけど、売ってた同人誌は、シャア×ガルマでした。

一同 (笑)

たつねこ 実はすごいキャリア?

むっちり まさか(笑)。ものすごい雨が降ったときの晴海だったんですよね。

里見 コミケット27ですか。

米沢 そのときはもう読み手として?

むっちり 読み手というか、買えずに立ち読みだけしていました。当時、高いと思ってしまって。

たつねこ そうそう同人誌って高いなって最初思ったよね。あんな薄っぺらいのに。

米沢 そこからサークルを立ち上げるまではどのくらいなんですか。

むっちり ゲストとして友達のところで描かせてもらっていたら、一緒にやろっかという話になって、二人で(サークルを)立ち上げてたんだけど、その友達が就職で活動ができなくなつたので、一人でやることに。

米沢 そのときは「トルーパー」だったの?

むっちり 確か、私が最初やつたのが「マジンガーZ」…。

一同 (笑)

米沢 なぜ「マジンガーZ」?

むっちり なんででしょうね。若かったから?(苦笑)

米沢 でも、「C翼」の時代ぐらいでしょ。

むっちり そうです。ガンガンと毎月狂ったように出していたのは「アニメ三銃士」の頃かな。

里見 88年くらいだね。

むっちり で、「トルーパー」に行って、「シュラト」とか色々よろずであちこち行って、「セラモン」ですか。

オレが欲しい本 オレが作る!

米沢 門井さんと、むっちりさんのお2人にとって、やっぱり、やおいというのは重要だったんですか。

むっちり 門井さん、やおい描いてましたっけ?

門井 ううん、描かない。

里見 お2人は基本的にやおいは描いてないですよね。

米沢 ああ、そうか。じゃあ、逆にやおいにならない理由というのは。

門井 うーん……なんでそこでやおいに走らなければいけないのか、わからないんですよ。

むっちり 描きたいものを描いていたら……。

門井 お笑いだった?

むっちり ですね(笑)。

米沢 「OUT」の血が濃いのかな。

門井 そうかも。自分の感覚が育った時代に「OUT」を読んだからだったからなのかなあ?

むっちり ええっ!? 描けるものなら(笑)。

米沢 晴海から幕張に行くころは、ちょうど、女の子と男の子がどっちも盛り上がりがいった時代だったとは思うんですよね。

たつねこ お互いに独立独歩で、さわらないようにさわらないようにしていたんじゃないですかね。「星矢」の本を買いにいこうとして怒られたことありましたよ。

うたたね そういう話はよくきましたよね。

米沢 男性系では、女性読者はいたの?

新田 まあ、めったに来ない(笑)。

里見 女性が男性向けのエロ同人誌を買うようになったのって、たつねこさんとか、うたたねさんからですよ。たつねこさんとうたたねさん以降、男性向けはそれまでと全然絵柄が変っちゃうから。

うたたね 読者のことはあまり覚えてないですね。逆に作家さんから、たつねこさんと私のやおい同人誌を出そうか、という話を聞かされて、「えーっ」と思った記憶があります。

たつねこ うわっ、そうなんだ(笑)。

米沢 男女が入り混じり始めるというのと、大手が出てくる時期っていうのは結構重なるんですかね。

たつねこ そういったものが、結構見られるようになるのは「セラモン」以降でしょうね。

小川 買い手からすると。たつねこさんが「サイバーフォーミュラ」と「ファイバード」の本をレヴォとスーパー・シティで連続して出されたときに、隣の列に女性が並んでいて、衝撃を受けたことを覚えてますよ。

たつねこ 覚えてないなあ。隣がどうか、お客様がどうかなんて、見てる余裕はなかったよね。自分がそのとき見たOVAが面白かったから、っていうだけで本作ってましたから。

米沢 かなりの長編でしたよね。

たつねこ それまで売れていた本を見たら、たいていイラスト本やゲスト本だったんですね。それなら漫画を描いた方が面白いんじゃないと思ったんですよ。

米沢 それまでは規制以前だから、露骨な絵さえあればいいみたいな感じもあったよね。

たつねこ だから、当時とともに漫画を描いていたのって、僕は新田さんぐらいしか知らない。同人誌ってエロ漫画がなかったんですよ、極端なこと言っちゃうと。

米沢 るんるんコネクションも炬燵屋も、どちらかというと、元のアニメを長編パロディに変えちゃう傾向があったでしょう。

新田 ああ、ページ数がないと描けないもんね。

たつねこ ねえ。

米沢 でも、普通の人たちはそうは描かないわけで(苦笑)。同人誌の場合、短いものや、イラストだけというの多かった中で、漫画として読めるものを描くと、評判になっちゃう部分があったとは思うんですよね。

うたたね 男性向けで、きっと漫画になってるものって少なかったですね。だから、たつねこさんの本も、新田さんの本も、男性は両方とも買ってましたよね。

米沢 キャラクターへの愛やジャンルにこだわるってのが女性で、一方、作家に惹かれるのが男性だからね。女の子の、ジャンルへのこだわりについて聞きたいんだけど。もう熱狂してるっていう感じ?

むっちり そう……ですね。こうなって(視野が狭まって)、で、落ち着いてくるとだんだん周りが見えてくる。

門井 そうそう(笑)。

むっちり で、あっちにも楽しいことが、っていうとまた流れていくような。

米沢 そのとき、前のやつって捨てちゃいますよね。

門井 捨てていきますね。

米沢 だから足跡はっきりしてますよね。前のものを置いて、次の新居に移るみたいな。

一同 (笑)

米沢 新田さんとかたつねこさんとかも、取り上げるも

用語解説

■「ラビュタ」のイベント

コミケット30において、晴海の新館2Fの奥で行われていた「天空の城ラビュタ」の宣伝イベント。当時の素から、タイアップ企画で「天空の城ラビュタ」というまんまと名前の低炭酸飲料(味はレモン&ライム、シトラス&ミックス)が発売されており、これの販売も会場で行われた。閉場後、余ったドリンクのつかみ取り(つかめるだけつかんで100円)があったのも、何かもみな懐かしい。

■レヴォ

コミックレヴォリューション。87年11月が第1回。オールジャンル即売会で、当初は、女性向サークルもたくさん参加していたが、次第に、男性向サークルが増加、現在では、すっかり男性向のレヴォのイメージが定着してしまった。企業主催ではない即売会では最大の規模を誇る。第1回からずっと、池袋のサンシャインシティでの開催を続けてきたが、02年からは東京ビッグサイトにも進出した。今年4月の第37回をもって、その長い歴史に終止符が打たれた。

■凰巳乱

J9時代からブライハリケーンのサークル名で活躍。C翼へトルー期に、躍動感と筋肉美あふれるマンガで人気を得る。その作風から当時、男性作家説も流れていたが、れっきとした女性である。松野乱名義で白泉社の「コミコミ」などでも活躍した。トドのキャラクターがユニーク。

■死んでしまえ

上記凰巳乱のサークル名。他に聖竜降臨などもある。

■シャア×ガルマ

いわゆる「ファーストガンダム」のジオン公国の大形キャラクター。単純な美形カップリングではなく、原作における、親同士の確執とそれがもたらした数奇な運命、数々の名ゼリフが相まって、耽美系を中心として多くのパロディ作品が生まれた。本橋馨子(当時のベンネームは汐見茂思)、立野真琴(同じく盾乃誠)、山藍紫姫子など、この作品で人気を得た作家も多数多い。

■マジンガーZ

72年12月~74年9月放映の永井豪とダイナミックブロ原作のTVアニメ。いわゆる巨大ロボットアニメの元祖。超合金などの関連玩具が爆発的に売れ、この作品でロボットアニメの収益構造のフレームワークが確立されたと言われる。

■アニメ三銃士

87年10月~89年2月放映のTVアニメ。主題歌は酒井法子の「夢冒険」。原作は、アレクサンドル・デュマの「ダルタニヤン物語」。主人公のアラミスの性別を女性に変更し、男装の麗人としたこともあってか、女性ファンの人気が高い。

のが変わりますよね。

新田 アニメはね。オリジナルとアニパロってなんか違う楽しみがあるんですよ。アニメの本もなんか出したい、というのは常にあって。でも、話題になってるのは他の人がいっぱい出すから、僕は違うものが出したいっていう感じです。

米沢 あまり男性が取り上げないものをやりますよね。

新田 それは、「コミケットに行けばほしい本が必ずある」って一時期言われてましたけど「それは嘘だ、俺がほしい本はない! しようがないから自分が描く」——という、罵にはまってしまったから(笑)。

うたたね そういう感覚も「セラムン」以降、変わっちゃった気がしますけどね。

新田 ああ、それは感じますね。

うたたね 「セラムン」で、「エロは売れる」みたいなことになってから、そっち方向しか見ないサークルが増えちゃったように思うんですよ。

表現規制の彼岸と此岸

米沢 ええと、「セラムン」に行く前に、有害コミックと表現規制の問題について聞きたいんですよ。幕張を追い出されるということになって、晴海に戻ってくるにあたって、厳しい規制が入った緊急アピールを出すことになった。そのへんどういうふうに受け止めました?

たつねこ 消しを入れられるようになって、ちょっと萎えましたね。

新田 あ、ほんと? オレは全然。本を見てもらうとわかるけど、そのものズバリは描いてないんですよ。前からその部分を描くことが目的じゃないんで。

うたたね それはすごくわかる。私も1カット2カットぐらいだったらサービスで入れてもいいけど、基本的には見せない描き方をしてたんで。というか、見えない方がやらしいだろうと思ってた。だから、別にそれならそれで構わないな、っていう感じでした。大変なところは多いだろうな、とは思いましたけど。

たつねこ うちにもう大打撃でしたよ。当時はKEN-Gさんと2人で技を競いあってたんです。女性がいる中でこういう話は非常にしにくいくらいだけど……今だったら絶対

に消される部分の技術の研鑽があった(苦笑)。

うたたね 規制そのものよりも、何を基準に難癖つけられるかわからないのが怖かったです。

たつねこ そう。規制かけるんだったらかけるで、テンプレートが欲しかった。

米沢 他のサークルの反応はどうだったの?

新田 だって、そのときは南館にやられちゃったからねー。

たつねこ ねえ。見ようもない。

一同 (笑)

米沢 女性達ってのは、どういう風にうけとめたんでしよう?

門井 その当時は他のイベントにも出てたんで、コミケがなくなったとしても、ほとんど何も思わなかったと思うんですね。ただ、最近はコミケしか出でていないから、どういう事態になってもいいようにしてはいます。もし朝に今日コミケできなくなりましたって言われても、印刷屋に払えるだけに(グッズや本を)制限している。

里見 あの入稿日じゃ、そもそも数刷れないんじゃないの(笑)。

門井 いや、最近は前日にはちゃんと……。

新田 前日!

一同 (笑)

里見 そもそも、お2人はやおいって、読んでます?

門井 ええ。

むっちり ガンガンに。

里見 読むけど描かない?

むっちり 描けない(苦笑)。

米沢 当時「星矢」では、ハードなやつが出てたじゃないですか。

むっちり もう、J9の頃からハードはハードでしたよ。

門井 征×当もすごくハードだったよね。

米沢 そういう描写は結構あったんだよね。だったら、あの緊急アピールってのはどうでした?

門井 そもそも女子って、「モノ」描いてないでしょう。

むっちり 私たち女子の方は関係ない。男性系の問題だろう、って。

米沢 わざわざ、男性器も女性器も同じです、って書いたのに……。

新田 伝わってないんだ(笑)。

米沢 じゃあ、女性系サークルは、そのとき危機感って

あんまりなかったのかな。

門井 私達の人生には関係なかったですね(苦笑)。

刊行ペースの男女の違い

うたたね なんだかんだ言って、男性系サークルそのものが少なかったですよね。結局、外したってひとつ即売会が保っちゃうレベルですから。

米沢 そのころコミケ以外にサークル参加していたイベントは?

うたたね レヴォでしょうね。

たつねこ 一時期のレヴォっていうのは、オレと新田さんで一生懸命やってきたようなところがあるじゃないですか。

新田 えっ、そうですか?

うたたね いや、そうだと思いますよ。僕もやっぱり炬燵屋とユニオンを買いに行ってましたからね。あとは(Dr.)モローさんかな。

米沢 男女の混合にはモローもね、結構、力を貸しているんじゃない?

うたたね あれは大きいと思いますよ。

米沢 女性はやっぱりコミケとシティと……。

門井 あとレヴォ。1回目から出てますよね。

むっちり 私も。

米沢 シティだと毎月参加ですか? あの頃一番激しくやってた時期でしょ?

むっちり ええ、若かったんで、週1とか、1ヶ月に2~3回は、即売会に出てました。

新田 そのたびごとに新しい本作るんですか?

むっちり そのたびごとに。

新田 すげえ!

むっちり そのころは(そういうペースで)出してるサークルさんが当たり前のようにたくさんあったので。

うたたね そういう話を聞くたびに、男性系としては「信じられない」って思った。

米沢 女性たちは、月刊どころか週刊ペースで……。

門井 私は、そのころは、そんなペースで描いてなかつたです。

たつねこ 門井さんはスローペースだったよね。

用語解説

■シュラト

「天空戦記シュラト」。89年4月~90年1月放映のTVアニメ。「星矢」「トルーパー」につづくプロテクター装着モノ。TVオリジナル作品でテレビ東京系といふことも生まれの不幸もあり、これらの作品ほどには爆発的な人気を得たわけではなかったが、コミケットの申込みジャンルコードができるくらいには十分盛り上がった。

■たつねこさんとわたしのやおい同人誌を出そうか

かっこいい男性作家がいると、こういうことを企む腐女子が必ずいる。世にやおいのねたぞ尽きまじ。

■ファイバード

「太陽の勇者ファイバード」。91年2月~92年1月放映のTVアニメ。サンライズ制作のいわゆる「勇者シリーズ」の第2作目。「勇者シリーズ」は、少年と勇者(ロボット)の関係をテーマにしており、同人誌的に根強い支持を得た連作である。

■スーパーシティ

正式にはスーパーコミックシティ。赤ブーブー通信社が、ゴールデンウィークに開催している大規模同人誌即売会。開催当初は、東京文芸出版との共催だった。

■緊急アピール

これが、コミケットがサークルに向けて出されるときは、ロクでもない事態の時であり、最近はなくて何よりである。

■KEN-Gさん

FRED-KELLYとともに、サークルART THEATERで活動。「MELON FRAPPE」というタイトルの本のシリーズがある。装丁にこだわりのあまりないサークルが多かった男性系の中で、デザインに早くから取り組んだサークルの一つ。

■最近には前日

門井さんで一番ヒドかったのは、当日早朝入稿で、午後×時搬入(伏せるが、かなりヒドイ)だったとき。冗談じゃないよっ! の同人誌を刷り続けている大榮堂印刷が「大榮堂新聞」と言われるゆえんである。しかし、この時はさすがに門井さんに怒って厳しく注意したので、それ以後はマシになっている。それでも、前日なのかな……(里見談)。

■征×当

「トルーパー」での最もメジャーなカップリングの一つ「征×当麻」のこと。

■わざわざ、男性器も女性器も同じです、って書いたのに……。

今でも、女性系は他人事と思っているフシがあり、JUNE系などで、度々修正を余儀なくされるサークルが出るのは、困りモノ。お気をつけ下さい。

門井 すっごいスローだったけど、「セーラームーン」になつてから、ものすごいハイペースだった(笑)。

米沢 2人とも月に1回ぐらいは本を出していた?

門井 たぶん割り算すれば、「セーラームーン」のときはそうだったと思います。

むっちり 出すのが当然みたいな感じはありましたね。周りの空気も、新刊あって当たり前みたいな状態だったんで。

米沢 みんな一番出したときは一年で何十冊くらい?

むっちり 私は月に1冊ぐらいは出してたので……。

米沢 24~25冊?

むっちり そうですね。今思うと恐ろしい。

たつねこ ウチは、一番冊数出したときは、コミケで2冊、レヴォで1冊になるんで、単純に6冊になる。でも、出さないときは長いものを1冊だったから、総ページ数は変わらないですね。

米沢 新田さんは?

新田 数えたこともないので、わからないんですよ。結構出してたとは思う。

たつねこ あ、一冊500円で売ればいいんだってのは、横で新田さんを見て学びましたね。ああすれば計算楽いやん、って。

新田 買う方もほんとに欲しければ1000円だろうが2000円だろうが買うわけじゃないですか。紙とインクにお金出すわけじゃないし、もちろん300円だったら嬉しいけれど。そのとき、500円だったら払いやすいし、計算が楽で待たされることもない、と思ったんだよね。

米沢 うたたねくんは、豪華な本や厚い絵本みたいなものも出していたけども、ああいう本作りってのは、やっぱり面白い?女性系の影響もあるの?

うたたね そうですね。それほど女性系の本を持ってたわけではないんですけど。やっぱり出すんだったらきれいな本を出したいてのはありましたね。実は、それほどデザインにはこだわってないんですけど、こだわるときは、とにかく人のやってないことをやろうとは思いました。男性系ではハードカバーがほとんどなかったと思うんで、作ってみたりとか。今はノンブルスラ手書きの状態ですけど(苦笑)。

小川 「革命(かわいのち)」ってずいぶん凝ってましたよね、判型も大判で。

うたたね あれはイラスト本だったので絵をでかく見せたいってのがあったのと、表紙の革っぽい質感を出すのに小さいと出ないという理由ですね。2冊目の「革新(かわあらた)」を出したときには、執筆メンバー分だけハードカバーも作ったんですけど、それだけで一般分と同じくらいの印刷費をとられて、死ぬかと思いました(苦笑)。

米沢 本物の革を使おうとは思わなかったの?

うたたね やりたかったんですけど、本物の革は厚すぎて、折り曲げたときに表紙が締められないんですよ。

セーラームーンで崩れた男女の垣根

米沢 で、そのあとに「セーラームーン」がくるわけだけど。みんなはまってたよね……あ、はまらなかつた?

新田 みんなやってんだから、俺はいいなって。でも1冊出してるんですよ、「セーラームーン」本。

たつねこ 新田さんと同じで、みんなやってるからやろうやろうとは言われましたけど、やらなかつたですね。実際、「セーラームーン」の本を出したのは、かなり後の方になるはずだし。

うたたね うちも1冊出てますけど、やっぱり遅いですね。実は番組が始まる前にはやろうと思ってたんですよ。開始前に設定が回ってきてたんですけど、あまりにも狙いすぎて外れるだろうと思ってたんですよ(笑)。それではかわいそうだから、やらなきゃと思ってたら……ふたを開けたら、ドカンといっちゃって。それで、ずっとやらなかつたんです。以降とにかくほんとに何があたるかわかんない世界になりましたよね。あと、なんで女性がこんなにはまるのかが理解できなかつた。

米沢 それは、女性陣に聞きましょう。

門井 TVをつけたら「セーラームーン」の1話がたまたまやつていて、「よお、面白いじゃん、変なの」と思ったの。だから、天然にハマつたという。

むっちり すぐはまつた(笑)。

門井 一番最初のとき、女性系と「セーラームーン」で配置された日にちが違つてたのか、いつもの売り子が誰もついてくれなくて、とにかく1人で売つてた。

米沢 それまで女性相手の本を作つてきたわけだけど、「セーラームーン」は男性が買つてくると思いました?

門井 とにかく「セーラームーン」が描きたかっただけで、そこまでは。でも、買い手は男性だと思ったから男性系のジャンルで参加したんでしょうね。男の人のばっかりの中で売つたことがなかつたんで、売れるのかなあという疑問をもつて売つてた覚えが。

むっちり 私は、アニメのよろづで出してたので、「セーラームーン」も)男性系では売つてませんでした。

米沢 でも、男性が買つに来た?

むっちり そうですね。カットで「セーラームーン」を描いたら、そのカットできつてもらえるようになって。

米沢 男性が買つに来たときどう思いました?

むっちり 前のジャンルのときから少しだけ男性が買つてくださつたので……特に何も思わなかつたです(笑)。

米沢 「セーラームーン」あたりから男女の垣根が崩れる状況があつたと思うんですよ。女性のサークルに男性がついたり、男性系を女性が買つに行くみたいな。男性系に女性の作家達がゲストで描いたり。うたたねくんのところとか。

うたたね 私の場合は、基本的にミーハーなんで、他の人の絵が見たかっからですね。知り合いになつて描いてもらえる方にはガンガン描いてもらつ感じだった。

門井 私は、「セーラームーン」をやり始めて、「あ、女の子描いてもいいんだ」って思つたという感じですかね。実は「トルーパー」でも、まじめに話を書こうと思ったのが、ナスティと征士だったんだよね。そっからダメじやん(苦笑)。

米沢 こちらからすると、女性の描く少女漫画は女の子が出てくるのに、同人誌の場合は男しかいなくなつたじゃない。「セーラームーン」で少し少女漫画に戻つたのかなあ、と思ったんだけど。

門井 私は、ターゲットとして男の人に向けては描いてるつもりはなかつたですね。ただ、少女漫画を描いているような気持ちはなかつた。

むっちり 私も、あんまりないです。

米沢 単純に、女の子そのものが描きたい?

むっちり 描いてて楽しいのは、女の子かな。

門井 うん、女の子。

米沢 その辺が、やおいと分かれる部分なのかな。男の連中が少年描くようになるのも同じ時期なんですよね。「セーラームーン」の影響か「百合」サークルも出てくるし。

用語解説

■モローさん

Dr.モロー。サークルはモロモロ。ユニークなキャラクターと破壊力のあるギャグで長い人気を誇る描き手。コミケットカタログの穴埋めマンガでもおなじみ。「C翼」「星矢」華やかなりし頃、当時の大手サークルの描き手を多数集めて、モローと誌上掛け合い漫才をやらせた「Dr.モローファンクラブ」本を、イワエもんとフデタンが作ったこともある。

■革命(かわいのち)

うたたねさんが、92年4月にプレビュー本を発行し、92年8月に発行した同人誌。豪華ゲスト陣による、ビザール・ボンデージ本。

■あまりにも狙いすぎて外れるだろうと思ってた

かつては、制作者サイドであまりにもマニア受けを狙っている作品に対しては、受け手の側で、そんな見え透いたワナには引っかからない!という矜持を持っていたが、「セーラームーン」あたりから、「面白ければOK!」という風潮に次第になつたように思われる。

■天然にハマつた

人間ハマると恐ろしいモノで、この後、門井さんは、「セラコミ」(95年7月)、「セラコミR」(96年2月)という名のセラムンオンラインを2回主催する。

■とにかく1人で売つた

ずっと、女性系のジャンルで活動してきた描き手が、男性系でスペースを取るときに、一番困るのが、売り子の確保。コミケットのようなオールジャンル即売会ならまだしも、男性向け中心の即売会まではつき合つてくれないことが多い。

■ナスティと征士

ともに、「トルーパー」のキャラクターで、ナスティは女性キャラ。原作のストーリー展開もあり、同人誌でも征士×ナスティというノーマルカップリングは、それなり支持を得ていた。

■「エヴァンゲリオン」

95年12月、UROBOROS発行のエヴァ本。この本も豪華な執筆陣である。



そういう意味では、ジェンダーフリー状態に(笑)。

むっちり うーん、やおいを、そのまま単に女性でって程度のことしか、私は考えなかった。

門井 カップリングが女同士になったっていうだけで。

むっちり うん、それだけの違いで。やおいの延長で女性同士になっただけで、「百合」っていう意識があったわけじゃなく。

門井 今いわれて、「百合」だったのか、と(笑)。

米沢 うたたねくんの本なんか、ショタっぽかったり、百合っぽかったり、色んな物が出てきて、フェティッシュの総合商社に見えるんだけど、そのあたりは、自分の中にあるものなの?あくまでテーマ?

うたたね 色っぽさの表現へのこだわりが大前提で、あとはテーマとして選んでるだけですね。自分は基本的にかなりノーマルなんで。逆にだからなんでもOKなんじゃないかな。ニュー・トランジットな位置でなんでも描ける立ち位置がいいなあと思ってるので、趣味がどうこうっていうのではないですね。じゃあ、どれも趣味なんじゃないか、と言われれば、そうなのかもしれないけど。

変わる参加者、変わったサークル

たつねこ なんとかフェティッシュのカテゴリーに話題を収めようとしてません?

米沢 そんなつもりはないけどね(苦笑)。そうやって、盛り上がっていかで、A館体制というのができてくるわけです。列ができるサークルとそれ以外というかたちで、二極化していった状況があったでしょう。そのあたりどうでした?

新田 私が古いのかもしれないけど、それまでは、好きなサークルさんがいたらそこにいって、ちょっと話っていうのも、割と気楽にできただよな気がするんですよ。それが幕張行って、もう一度晴海へ帰ってきたあとは、かなりビジネスライクになってたような気がする。この交換でも、「うちはそういうことやってませんから」とみたいなサークルがはっきりと出てきたのは、メッセのあとぐらいからなんじゃないかな。だから、サークルそのものに近寄りづらくなっているような気がします。

米沢 昔は、大手って言っても、たまたま売れただけで、

あんまり垣根ってないと思ってたんですよ、こっちは。
新田 大手になったら近寄れない、みたいな雰囲気があの頃にできちゃったのかなという気はしますね。

うたたね 近寄りづらくなった、というのはありますね。若いサークルになると特に。こちらも向こうもある程度立場みたいなのができちゃってるじゃないですか。そうなるとこちらは年も上だし、なんか頭ごなしになりそうな感じがして。気軽に挨拶にいけない雰囲気がある。

米沢 それは、「セーラームーン」やA館体制が出てきたあたり?

うたたね いや、もう少しあとですかね。

里見 ギャルゲーブームで大きく変わった気がします。

門井 ギャルゲー(が主流)になってから、極端にサークルとしゃべることがなくなった。

うたたね 10年前くらいからかな。「儲かる」っていう感覚で入っている人たちが増えたじゃないですか。

新田 そうそう。

うたたね 私達のころは、どっちかというと面白いことをしたかったというのが大きかったと思うんですけど。

米沢 実際にはそうじゃなくても、今はそういうふうに見えちゃうのかもね。A館体制のころが一番、同人誌バブルだったわけだけれど、そのあたりについては?

うたたね そのころかな、共同購入する人がどんどん来るようになった。そこらへんで、またちょっと客層が変わったと思うんですよ。

小川 購入冊数も増えました?

うたたね 一度、736冊くださいっていうのがあった。

一同 (笑)

里見 端数があるところがかわいいね(笑)。

うたたね 1500冊しか刷ってなかったので、どうしようかと悩みましたね。

門井 それは男性系独自の買い方なんじゃないですか?

むっちり 女性は多くて、5冊多いぐらいですよね。

門井 そうそう。サークルの友達の分をひとりが買ってきたとか、そういう感じ。

米沢 UROBOROSは、いつからA館に放り込まれたの?

うたたね えーと、「革命」のときからですね。そのときに「736冊ください」って言われたんですよ。

たつねこ 用意してくる冊数が少なすぎるよ。

うたたね いや、当時としては多かったよ。

里見 ユニオンと炬燵屋に比べたら、その時は少ないでしょう。

うたたね そりゃそうですけど、だって新参ですからね。だからそのあとガンと増やして、「エヴァンゲリオン」では1万部にしたんですけど、開場15分で終わっちゃった(苦笑)。それに、同人誌古書店がそのころ出始めて、レヴォ開始30分で売り切れた本が、その1時間後ぐらいに1万5千円で売ってたっていう話もあって。それで、ああもうこのやり方はダメだ、と。広く人に渡れば古書の値段も下がるだろうと思って、それから冊数制限をかけて、とにかく人に渡るようにした。でも、古書の値段がさがったらさがったで、「ああ、あそこ人気落ちてきたな」としか、思われないんですよね(苦笑)。

米沢 まあまあ。

うたたね そうこうしているうちに、ギャルゲー世代になって。そこで客層が一番変わったように思いますね。漫画でなくてもいいというか、漫画じゃない方がいい人が増えたんですよ。それに好みが細分化しちゃったので、目当ての本買っちゃったら帰る人が増えたでしょう。いまは午後になると結構ガラガラになっちゃうんで、あれはびっくりですよね。

米沢 その辺の意識が変わってきたのは、やっぱりビッグサイトに来てからなのかな。

うたたね だと思います。あと、企業ブースの問題もあると思うんですけど。グッズは欲しいけど、本まではいらないみたいな客層も入ってきて。それが嫌だというわけじゃないんですけど、客層が変わったなあ、と。

米沢 まあ、そういう層にも同人誌とか漫画の面白さみたいなものを教えてもらいたいし、発見してもらえばいい、というところもこちらにはあるんですけどね。じゃあ、最後に、あなたにとってコミケットとは、同人誌とは、漫画とは? ということについてひとこときいて、終わりにしたいと思います。

あなたにとって コミケットとは?

むっちり なんだろう……楽しい場所。

米沢 卒業とか考えない?

むっちり そうですね。体力の続く限り(笑)。

門井 私は、過去形ですけど「青春だった」みたいな(笑)。

米沢 年をとってしまったという感覚がある?

門井 そういう感覚が最近すごくありますね。さっきうたたねさんもおっしゃったみたいに、客層が変わったっていうのは、肌で感じるものがあって。

米沢 漫画は描き続けていくと。

門井 うん、漫画は描き続けます。

うたたね 私は、一時期、義務感で苦しかった時期がありましたけど、今はもう(コミケが)あって当たり前みたいな感じですね。ある意味安定しちゃったんで、逆に好き勝手なことやって、逆に今は楽ですね。

米沢 プロとして続けていきながら、同人誌もやっていきたい?

うたたね そうですね。でも、きちんと商業誌のページ数増やすないと。

たつねこ ギャルゲーの原画家さんのラフ絵とかが歓迎されていくような時代になって、オレは漫画メインでやってきたんで、場所を追われたかな、という感覚はありましたね。で、まあいい思い出だったかな、と。

米沢 では、最後に新田さん。

新田 それは、もう死ぬまでやることなんじゃないでしょうか。

一同 (笑)

聞き手・米沢嘉博/里見直紀(コミケット準備会)

小川びい



この年表は、コミケットが始まる前から2003年までの、マンガ、アニメ、ゲームのおもだつた作品や、周辺サブカルチャー、同人誌界の主な出来事について、まとめたものです。特に、コミケットや同人誌界で流行った作品は、重点的に取り上げるように心がけました。

なお、各作品は、基本的にはその作品が始まった年を基準に年表に記載しているので、当該作品が人気を得た年とは、必ずしも一致しないこともあることには、留意してください。

	まんが	アニメ	ゲーム	映画（実写）音楽
1970	【ホモホモ7】	【あしたのジョー】		〈オフコース〉
1971	【タイガーマスク】	【ルパン三世】		〈沢田研二〉
1972	【デビルマン】	【海のトリトン】		【タイムトラベラー】
	【ボーグ一族】	【科学忍者隊ガッチャマン】		【太陽にほえろ】
	【ベルサイユのばら】	【マジンガーZ】		【必殺シリーズ】
	【壹劇新思想系】	【ど根性ガエル】		〈井上陽水〉
1973	【釣りキチ三平】	【ドラえもん】		〈荒井由実〉
		【キューティーハニー】		〈山口百恵〉
1974	【がきデカ】	【アルプスの少女ハイジ】		【傷だらけの天使】
	【ブラック・ジャック】	【宇宙戦艦ヤマト】		〈中斐バンド〉
1975	【われらはみだっ子】	【勇者ライダー】	【ローグ】	【JAWS】
	【キャンディ・キャンディ】	【タイムボカン】		〈山下達郎〉
	【サーキットの狼】	【UFOロボ グレンダイザー】		〈中島みゆき〉
1976	【こちも葛飾区東有公園前派出所】	【超電磁ロボ コン・バトラーV】		【犬神家の一族】
	【がんばれ元氣】	【キャンディ・キャンディ】		〈大貫妙子〉
	【イブの息子たち】	【母をたずねて三千里】		【ムーンライダーズ】
	【ガラスの仮面】			〈ピンクレディ〉
	【風と木の詩】			〈浜田省吾〉
	【王家の紋章】			
	【博多っ子純情】			
1977	【銀河鉄道999】	【ヤッターマン】	【ゾーク】	【人間の証明】
	【魔利と新音】	【惑星ロボダンガードA】	【スタートレック】	【ロッキー】
	【マカロニほうれん荘】	【超電磁マシン ボルテスV】		【刑事スタスキー&ハッチ】
	【すすめ!!ハイレース】	【宇宙戦艦ヤマト】劇場版		〈谷山浩子〉
	【地球へ...】	【ルパン三世(新)】		
	【生徒諸君!】	【無敵超人ザンボット3】		
	【天使のはらわた】			
1978	【ファンタム無頼】	【闇将ダイモス】	【スペースインベーダー】(AG)	【未知との遭遇】
	【翔んだカッブル】	【未来少年コナン】		【スター・ウォーズ】
	【綿の国星】	【無敵鎧人ダイターン3】		【サタデー・ナイト・フィーバー】
	【カリフォルニア物語】	【さらば宇宙戦艦ヤマト 愛の戦士たち】		【熱中時代】
	【不条理日記】	【銀河鉄道999】		【ザサンオールスターズ】
	【じゃりんこチエ】	【新・エスをねらえ!】		〈Y.M.O.〉
1979	【キン肉マン】	【機動戦士ガンダム】	【ギャラクシアン】(AG)	【エイリアン】
	【うる星やつら】	【銀河鉄道999】劇場版		【スタートレック】劇場版
	【アリオン】	【ベルサイユのばら】		【スーパー・マン】
	【エロイカより愛をこめて】	【ルパン三世カリオストロの城】		【地獄の黙示録】
	【バタリロ】	【ドラえもん(新)】		【探偵物語】
	【伊賀のカバ丸】	【サイボーグ009(新)】		【3年B組金八先生】
	【レモン白書】			【THE ALFEE】
	【あさきゆめみし】			〈CHAGE&ASKA〉
1980	【Dr.スランプ】	【伝説巨神イデオン】	ゲーム&ウォッチ発売	【復活の日】
	【みゆき】	【宇宙戦士バルディオス】	【ウルティマ】(PC)	【地獄の黙示録】
	【日出処の天子】	【ヤマトよ永遠に】	【パックマン】(AG)	【スター・ウォーズ 帝国の逆襲】
	【エイリアン通り】		【クレイジークラマー】(AG)	【ツイゴイネルワイゼン】
	【めぞん一刻】		【ワイヤードリー】(PC)	【佐野元春】
	【気分はもう戦争】			【松田聖子】
	【童夢】			
1981	【タッチ】	【機動戦士ガンダム】劇場版	【ドンキー・コング】(AG)	【セーラー服と機関銃】
	【キャテン翼】	【戦国魔神ゴーンゴーン】		【魔界転生】
	【キヤツツ・アイ】	【機動戦士ガンダムII 哀・戦士編】		【レイダース 失われたアーク】《聖櫃》
	【六三四の剣】	【さよなら銀河鉄道999】		
	【ストップひばりくん!】	【六神合体ゴッドマーズ】		
	【ふたり鷹】			
	【南京路に花吹雪】			
	【陽だまりの樹】			
1982	【風の谷のナウシカ】	【銀河旅風ブライガー】	アタリショック	【E.T.】
	【軽井沢シンドローム】	【うる星やつら】	同人誌「ゲームフリーク」創刊	【ブレードランナー】
	【ときめきトゥナイト】	【戦闘メカ ザブングル】		【蒲田行進曲】
	【AKIRA】	【機動戦士ガンダムIII めぐりあい宇宙編】		【駆逐生】
	【あんどろトリオ】	【魔法のプリンセス ミンキーモモ】		【宇宙刑事ギャバン】
	【絶対安全剃刀】			【ナイトライダー】
	【キックオフ】			【中森明菜】
				【安全地帯】

*まんがは雑連載の開始時の年とする。
 *小説は単行本出版の年とする。
 *シリーズ作品はシリーズ名を記載。
 第1作の年とする。
 *海外の作品は日本で翻訳の出版、公開の年とする。
 *アーティストはメジャーでのレコード・CDリリースの年とする。

【】：作品名
 <　>：アーティスト名
 『　』：雑誌名
 "　"：イベント名
 (MD)：メガドライブ
 (PCE)：PCエンジン
 (SS)：セガサターン
 (FC)：ファミリーコンピューター
 (PS)：プレイステーション
 (GB)：ゲームボーイ
 (18禁)：PC用18禁
 (SFC)：スーパーファミコン
 (PS2)：プレイステーション2

商業出版	小説	即売会・同人誌界	その他
『COM』実質的休刊。	【日本沈没】	【COM】同人誌特集を組み、同人誌大賞を設ける	
	【家族八景】	“漫画大会”第1回	
		“マンガフェスティバル”第1回	
『プリンセス』創刊	ソノラマ文庫創刊	12月“コミックマーケット”第1回開催	ソニー、ベータ方式のビデオデッキ発売
『月刊少年マガジン』創刊	【神狩り】	女子大マン研次々と設立	
『リリカ』創刊	コバルト文庫創刊	少女マンガ系同人誌急増	“まんが市”第1回
『マンガ少年』創刊			
『LaLa』創刊			
『コロコロコミック』創刊			
『ちゃお』創刊			
『だっくす』創刊			
マンガ文庫本創刊ブーム			
『OUT』創刊			
『ASCII』創刊	【クラッシャージョウ】	“ミニコミフェア”第1回	講談社『手塚治虫漫画全集』刊行開始
『ちゃお』創刊		【宇宙戦艦ヤマト】ブーム始まる	
『Peke』創刊		“ミニコミフェア”第1回	
『ぶーけ』創刊		“コミックバザール”第1回	
『アニメージュ』創刊		“ミニフィック”第1回	
『マニフィック』創刊			
『スタートログ』創刊			
『COMIC JUN』創刊			
『少年ビッグコミック』創刊	【ゲインサー】	マイナーハイウェイ急増	マイナーハイウェイ、わいせつとして、警視庁の摘発相次ぐ
『ヤングジャンプ』創刊		ニューウェーブで同人誌作家露出	
『リュウ』創刊	【幻魔大戦】	【大いなる助走】	【ガンダム】ブーム
『アニメック』創刊		【戦闘妖精・雪風】	
『マンガ奇想天外』創刊			
『アゲイン』創刊			
『ジ・アニメ』創刊			
『BELOVE』創刊	【クララ白書】	コミケット、川崎市民プラザに移る	
『ブチフラワー』創刊			
『ピックコシックスピリッツ』創刊			
『ヤングマガジン』創刊			
『YOU』創刊			
『ふあんろーど』創刊			
『ALLAN』創刊			
レディスコミック流行			
『DUO』創刊	【星へ行く船】	コミケット分裂騒動	バイオニアがレーザーディスク発売
『コミックボンボン』創刊	【エスパー・コネクション】	コミケット19より晴海が会場となる	
『マイアニメ』創刊	【御手洗潔シリーズ】	ロリコンブーム盛り上がる	
『アニメディア』創刊	【魔界水滸伝】		
『ふゅーじょんぶろだくと』創刊			
『JUNE』創刊			
『レモンピーブル』創刊			
『grapefruit』創刊			
『美少女症候群』刊行	【キマイラ吼】	コミケット21より「コミケットカタログ」始まる	CDプレイヤー発売
『漫画ブリッコ』創刊	【雄居時代】	一般参加者1万人突破	
『コミックモーニング』創刊	【ウルフガイ】	高橋留美子人気高まる	
『WINGS』創刊	【魔界都市(新宿)】	“MGM”第1回	
『COMICBOX』創刊	【銀河英雄伝説】	コミケット22で参加サークルが1千を突破	
『テクノポリス』創刊	【浅見光彦シリーズ】		
『アニメージュ文庫』創刊	【Cobalt】創刊		

	まんが	アニメ	ゲーム	映画（実写）音楽
1990	【SLAMDUNK】	【勇者エクスカイザー】	NEO GEO発売	【櫻の園】
	【幽☆遊☆白書】	【キャッ党忍伝でやんでえ】	ゲームギア発売	【ファンシーダンス】
	【うしおとら】	【アイドル天使ようこそようこ】	スーパーファミコン発売	【フィールドーオブ・ドリームス】
	【甲童伝説ヴィルガスト】	【NG騎士ラムネ&40】	【ドラゴンエストIV】(FC)	【福山雅治】
	【フォーチュン・エキスト】	【ふしきの海のナディア】	【ファイナルファンタジーIII】(FC)	【たま】
	【BASARA】	【ちびまる子ちゃん】	【蓬萊学園の冒險!】(PBM)	【横原敬之】
	【寄生獣】	【ロードス島戦記】	【スーパー・マリオワールド】(SFC)	【ウルフルズ】
	【クレヨンしんちゃん】			【マライア・キャリー】
	【ナニワ金融道】			
1991	【南国少年バブくん】	【太陽の勇者ファイバード】	【ストリートファイターII】(AG)	【ターミネーター2】
	【GS美神極楽大作戦!!】	【新世紀GPXサイバーフォーミュラ】	【ソニック・ザ・ヘッジホッグ】(MD)	【半たちの沈黙】
	【ふしき遊戯】	【機動戦士ガンダムF91】	【ファイナルファンタジーIV】(SFC)	【SMAP】
	【赤ちゃんと僕】	【絶対無敵ライジンオー】	【ぶよぶよ】(FC)	【ZARD】
	【つぱい!】	【機甲警察メタルジャック】	【ベスト・競馬ダービースタリオン】(FC)	【電気グルーヴ】
	【BRONZE】	【きんぎょ注意報!!】	【ブリンセスメーカー】(PC)	【CHARA】
	【あすなろ白書】	【ドラゴンエスト ダイの大冒険】	【スーパー・ロボット大戦】(GB)	
	【岸和田博士の科学的愛情】	【1982おたくのビデオ】		
		【インフェリウス惑星戦史外伝CONDITION GREEN】		
1992	【金田一少年の事件簿】	【ママは小学4年生】	コンピュータソフтверア倫理機構設立	【ウゴウゴ・ルーガ】
	【美少女戦士セーラームーン】	【宇宙の騎士テッカマンブレード】	【ドラゴンエストVI】(SFC)	【NIGHTHEAD】
	【魔方陣グレル】	【美少女戦士セーラームーン】	【ロマンシング サ・ガ】(SFC)	【シャ乱Q】
	【ロスト・ユニバース】	【クレヨンしんちゃん】	【ファイナルファンタジーV】(SFC)	【access】
	【攻殻機動隊】	【幽☆遊☆白書】	【卒業】(PC)	
	【ゴーマニズム宣言】	【ジャイアントロボ 地球が静止する日】		【真・女神転生】(SFC)
	【恨ミュラ】	【天地無用! 魔界鬼】		【同級生】(18禁)
	【CLAMP学園探偵団】	【機動戦士ガンダム0083 STARDUST MEMORY】		【きゃんきゃん バニーブルミール】(18禁)
	【赤ずきんチャチャ】	【伝説の勇者ダ・ガーン】		
	【X-エックス】	【元気爆発ガングルガ】		
1993	【花より男子】	【甲童伝説ヴィルガスト】		
	【ママは小学4年生】			
	【東京大学物語】	【無責任艦長タイラー】	メガドライブ2発売	【ジェラシック・パーク】
	【月下の棋士】	【ミラクル★ガールズ】	【トルネコの冒険不思議のダンジョン】(SFC)	【LUNASEA】
	【陰陽師】	【美少女戦士セーラームーンR】	【バーチャファイター】(AG)	【JUDYANDMARY】
	【編集王】	【機動戦士Vガンダム】	【伝説のオウガバトル】(SFC)	
	【魔法騎士レイアース】	【SLAMDUNK】	【サムライスピリッツ】(AG)	
	【バガボンド】	【アイドル防衛隊ハミングバード】		
	【機動警察パトレイバー2】劇場版			
	【忍たま乱太郎】			
1994	【勇者特急マイタガイン】			
	【南国少年バブくん】			
	【るろうに剣心～明治剣客浪漫譚～】	【赤ずきんチャチャ】	3DO REAL発売	【スピード】
	【名探偵コナン】	【機動戦闘Gガンダム】	セガサターン発売	【ストリートファイターII MOVIE】
	【B'X】	【魔方陣グレル】	PlayStation発売	【TOKIO】
	【シート】	【マクロス7】	PC-FX発売	【椎名へきる】
	【MAJOR】	【魔法騎士レイアース】	【ときめきメモリアル】(PCE)	【ゴスペラーズ】
	【子どものおもちゃ】	【ストリートファイターII】	【ファイナルファンタジーVI】(FC)	
	【あづみ】	【霸王大系リュナイト】	【ヴァンパイアハンター】(AG)	
	【ドラゴンヘッド】		【アン杰リーク】(SFC)	
1995	【蒼天航路】		【THE KING OF FIGHTERS'94】(NEO GEO)	
	【MONSTER】			
	【天使禁猟区】			
	【八雲立つ】	【天地無用!】	【ドラゴンエストVI】(SFC)	【ガメラ 大怪獣空中決戦】
	【頭文字D】	【スレイヤーズ!】	【クロノトリガー】(SFC)	【Love Letter】
	【彼氏彼女の事情】	【新世紀エヴァンゲリオン】	【幻想水滸伝】(PS)	【安室奈美恵】
	【レベルE】	【ふしき遊戯】	【あすか120%】(PCE)	【華原朋美】
	【め組の大吾】	【新機動戦記ガンダムW】	【真・女神転生デビルサマナー】(SS)	【TWO-MIX】
	【烈火の炎】	【神秘の世界エルハザード】	【同級生2】(18禁)	
	【グラビテーション】	【黄金勇者ゴルドラン】		
1996	【魔法使いTail】			
	【攻殻機動隊 GHOST IN THE SHELL】			
	【闇の末裔】	【名探偵コナン】	NINTENDO64発売	【Shall We ダンス?】
	【遊戯王】	【天空のエスカフローネ】	【DIABLO】(オンライン)	【ガメラ2レギオンの襲来】
	【犬夜叉】	【VS騎士ラムネ&40炎】	【サクラ大戦】(SS)	【ウルトラマンティガ】
	【エクセル・サーフ】	【機動新世紀ガンダムX】	【ポケットモンスター赤・緑】(GB)	【T.M.Revolution】
	【封神演義】	【セイバーマリオネットJ】	【DEAD OR ALIVE】(AG)	【及川光博】
	【花ざかりの君たちへ】	【機動戦艦ナデシコ】	【スター・オーシャン】(SFC)	【V6】
	【まもって守護月天!】	【魔法少女プリティサマー】	【女神異聞録ヘルソナ】(PS)	【PUFFY】
	【こどものおもちゃ】	【栗】(18禁)		【坂本真綾】
1997	【勇者指令ダグオ】			【痕】(18禁)
	【爆走兄弟レッツ&ゴー】		【下級生】(18禁)	
	【るろうに剣心～明治剣客浪漫譚～】	【Piaキャロットへようこそ!】(18禁)		

商業出版	小説	即売会・同人誌界	その他
1990	美少女コミック誌B5判中と主流に	【スレイヤーズシリーズ】	コミケット参加者20万人突破 東京国立近代美術館、「手塚治虫展」開催、同美術館による、初のマンガ展
	【炎の蜃気楼】		美女女系同人誌ブーム再燃
	【間の模】		この頃より、「有害」コミック論争さかんに
		【ファミコンサークル急増】	
		【ショートブーム】	
		【ワタル・グランゾード】ブーム	
1991	『月刊少年ガンガン』創刊	【極道くん漫遊記】	3月、都内のマンガ専門店の店主、ワシツ物販売目的所持で書類送検
	『COMICBOX Jr.』創刊	【リーダロイド・シリーズ】	「有害」コミック問題が広がる
	『姫州黄龍伝奇』	【ネムキ】創刊	有害コミック問題を考える会創立
	『機神兵団』		即売会の多くが美女女系同人誌をしめ出すことに
		【ハレット文庫創刊】	ハレット文庫もあくまで新規メセから情説へ突然の会場変更
		講談社文庫ホワイトハート創刊	集英社スープ・ファンタジー文庫創刊
1992	『ヤングアニマル』創刊	【タクミくんシリーズ】	男性参加者急増 Windows3.1発売
	『ラキッシュ』創刊	【十二国記】	コミックシティ開催回数急増、地方へも進出
	商業誌で性を扱ったマンガ激減		【セーラームーン】大ブーム
	『同人誌大百科』(辰巳出版)刊行	【作家アリスシリーズ】	海外よりコミケットへサークル参加
		【王女グリダ】	
		角川ルビー文庫創刊	
			大陸書房倒産
1993	『電撃コミックガオ!!』創刊	【デルフィニア戦記】	フランス人監督ジャン・ジャック・ベネックス、コミケを取材
	『月刊コミックドラゴン』創刊	【封殺鬼シリーズ】	【幽遊白書】ブーム
	『Vジャンプ』創刊	【合田シリーズ】	【炎の蜃気楼】ブーム
	『月刊Gファンタジー』創刊	電撃文庫創刊	【SLAMDUNK】ブーム
	『BE×BOY』創刊	角川スニーカーG文庫創刊	コミケット、同人誌と共に「アニメアメリカ」に参加
	少年ジャンプが最高発行部数	ナボレオ文庫創刊	「アニメUK」に「コミケットセレクション」より作品再録
	『同人誌ハンドブック』刊		
1994	『少年エース』創刊	【富士見二丁目交響楽団】	10月に「コミックシティ幕張メッセ」開催中止
	【コミック電撃大王】創刊	【魔術師オーフェンはぐれ旅】	シネマ中心に爆発問題起き、企業系と独立系の即売会が一時对立
	『Comickers』創刊	【妖怪シリーズ】	メッセージサンダー開店
	『メフィスト』創刊		コミック虎の穴開店
	『VoiceImage』創刊		LLパレス開店
	『声優グランプリ』創刊		委託中心の同人誌書店オープン
	『活字俱楽部』創刊		ブロックリーカー創立、「コミックキャッスル」第1回
	『GameWalker』創刊		日本同人誌印刷業組合設立
	『コーラス』創刊		コストプレッシュ、企業系コストプレンバ始まる
	やよい系少女マンガ誌続々創刊		「コミケ殺人事件」など同人誌を素材にしたミステリ小説刊
1995	『Chara』創刊	【キル・ゾーン】	【コミケットブレス】創刊
			夏コミ3日間開催される 東京ビッグサイトブレオーブン
	『声優グランプリ』創刊		【コミケットサービス】新装開店 Windows95発売
	『まんだらけLIVE』創刊		コミケ、Web開設
			『まんだらけ』渋谷店オープン
			中古同人誌店次々オープン 同人コスプレ情報誌『セシム』創刊
			『まんだらけライブ』創刊 同人誌関連産業にぎやかになる
			【ガンドムW】大ブーム
			【エヴァンゲリオン】大ブーム
			【格闘ゲーム】ブーム
1996	『ルチル』創刊	【バッテリー】	3月、さよなら晴海コミケットスペシャル開催 TVアニメ枠深夜に拡大
	【少女コミックCheese!】創刊	【楽園の魔女たち】	6月、マニアのフリーマーケット“東京マニアックス”開催 小林よしのりによる歴史教科書批判が話題となる
	『デザート』創刊		“コミッククリエイション”第1回 インターネットの普及始まる
			九州SF大会“コクラノミコン”にて、初めて同人誌即売会を併設イベントとして開催
			【コミケット二十周年記念料集成】刊行 3月末大田区産業会館閉鎖
			“J.Garden”第1回 3月末晴海国際見本市会場閉鎖
			有明での最初のコミケ40万人を集める 3月東京ビッグサイト正式オープン
			冬コミより企業ブースを設置
			ゲーム系サークル増加
			【アン杰リーク】ブーム

	まんが	アニメ	ゲーム	映画（実写）	音楽
1997	【カードキャバーサクラ】	【少女革命ウテナ】	【ファイナルファンタジーVII】(PS)	【インディペンデンスデイ】	
	【HELLSING】	【勇者王ガオガイガー】	【ワルティマオンライン】(オンライン)	【タイタニック】	
	【Wei β】	【CLAMP学園探偵団】	【悠久幻想曲】(PS/SS)	【ワルトラマンダイナ】	
	【最遊記】	【ハトルアスリーテス大運動会】	【マリーのアトリ】(PS)	【踊る大捜査線】	
	【天上天下】	【剣風伝奇ベルセルク】	【To Heart】(18禁)	【DA PUMP】	
	【D·N·ANGEL】	【ポケットモンスター】	【Piaキャロットへようこそ!】(18禁)	〈KinkiKids〉	
		【新世紀エヴァンゲリオン 劇場版 シネマ生死 DEATH & REBIRTH】	【MOON.】(18禁)		
		【もののけ姫】			
1998	【トライガン】	【カウボーイビバップ】	【ドリームキャスト】発売	【リング】	
	【ラブひな】	【lain】	【ダンダンスレボリューション】(AG)	【らせん】	
	【封神演義】	【felskreuz】	【センメンタルグラフィティ】(SS)	【踊る大捜査線 THE MOVIE】	
	【HUNTER×HUNTER】	【トライガン】	【サキッキ・フォース】(AG)	【ワルトラマンガイア】	
	【フルーツバスケット】	【遊☆戯☆王】	【GUILTY GEAR】(AG)	【野猿】	
	【藍より青し】	【彼氏彼女の事情】	【ゼ/ギアス】(PS)	【宇多田ヒカル】	
	【ホイスル!】	【魔術師オーフェン】	【東京魔人学園】(PS)	〈モーニング娘。〉	
	【シャーマンキング】	【カードキャバーサ克拉】	【サクラ大戦2】(SS)		
		【青の6号】	【幻想水滸伝II】(PS)		
		【新世紀エヴァンゲリオン 劇場版 THE END OF EVANGELION Air:まごころを、君に】	【Natural~見も心も~】(18禁)		
		【まもって守護月天!】	【WHITE ALBUM】(18禁)		
			【ONE~輝く季節へ~】(18禁)		
			【With You】(18禁)		
1999	【あずまんが大王】	【おジャ魔女どれみ】	【ときめきメモリアル2】(PS)	【アルマgedon】	
	【ヒカルの碁】	【デジモンアドベンチャー】	【俺の尻を越えてゆけ】(PS)	【マトリックス】	
	【ライジングインパクト】	【無限のリヴァイアス】	【サーファイア】(PS)	【スター・ウォーズ・エピソード1 ファントム・メナス】	
	【テニスの王子様】	【マガジム】	【ファイナルファンタジーVIII】(PS)	【嵐】	
	【魔探偵ヨキ】	【HUNTER×HUNTER】	【Kanon】(18禁)	〈倉木麻衣〉	
	【遙かなる時空の中で】	【To Heart】	【ミックパーティー】(18禁)		
	【新撰組異聞PEACEMAKER】	【ワンピース】			
	【西洋骨董洋菓子店】				
	【まほろまていっく】				
	【エンジェリックレイヤー】				
2000	【ワンピース】	【ゲートキーパーズ】	PlayStation2発売	【バトルロワイアル】	
	【NARUTO】	【ラブひな】	【ドラゴンエースVII】(PS)	【池袋ウエストゲートパーク】	
	【ちょびっつ】	【犬夜叉】	【ファンタシースターオンライン】(オンライン)	【仮面ライダークウガ】	
	【最終兵器彼女】		【サモンナイト】(PS)	【鬼束ちひろ】	
	【ハチミツヒクローバー】		【ペルソナ2】(PS)	【矢井田瞳】	
			【遙かなる時空の中で】(PS)		
			【好きなものは好きだからしょうがない】(PC)		
			【AIR】(18禁)		
			【月姫】(18禁)(同人)		
			【真・三国無双】(PS2)		
2001	【最遊記】	【シスター・プリンセス】	ゲームボーイアドバンス発売	【ハリーポッターと賢者の石】	
	【Mr.FULLSWING】	【ギャラクシーエンジェル】	【高機動幻想ガンバレードマーチ】(PS)	【GO】	
	【鋼の錬金術師】	【まほろまていっく】	【ポップンミュージック】(AG)	【陰陽師】	
	【金色のガッシュ!!】	【Hellsging】	【Ragnarok Online】(オンライン)	【仮面ライダーアギト】	
	【BLEACH】	【ちっちゃな雪使いシガ】	【シスター・プリンセス】(PS)	【W-inds】	
	【LOVELESS】	【ヒカルの碁】	【サクラ大戦3】(DC)		
	【恋風】	【テニスの王子様】	【グローランサー】(PS)		
	【のだめカンタービレ】	【千と千尋の神隠し】	【逆転裁判】(GBA)		
		【クロヨンしちゃん 墓をぶつモーレツ大帝国の逆襲】	【王子さまLV.1】(PC)		
		【サイボーグ009】	【みすいいろ】(18禁)		
		【機動天使エンジェリックレイヤー】	【水夏～SUIKA～】(18禁)		
			【君が望む永遠】(18禁)		
2002	【スクールランブル】	【おねがい☆ティーチャー】	【ファイナルファンタジーX】(オンライン)	【ハリーポッターと秘密の部屋】	
	【アイシールド21】	【フルメタル・バニック!】	【学園ヘブン】(PC)	【ロード・オブ・ザ・リング】	
	【エマ】	【十二国記】	【ときめきメモリアルGirlsSide】(PS2)	【ピンポン】	
	【よつばと!】	【ラーベンフン】	【ゼノサーガ】(PS2)	【木更津キャッツアイ】	
	【美島の日々】	【ちょびっつ】	【幻想水滸伝III】(PS2)	【仮面ライダー555】	
	【ブラックジャックによろしく】	【.hack//sign】	【Wind~a breath heart~】(18禁)	【元ちとせ】	
		【あずまんが大王】	【うたわれるもの】(18禁)		
		【オーバーマン キングゲイナー】	【水月】(18禁)		
		【ヒートガイJ】	【D.C.~ダ・カーボ~】(18禁)		
		【機動戦士ガンダムSEED】	【白詰草話】(18禁)		
		【NARUTO】			
		【藍より青し】			
		【ホィッスル!】			
		【ほしのこえ】			
2003	【魔法先生ネギま!】	【魔法使いに大切なこと】	【SNOW】(18禁)	【キル・ビル】	
	【ツバサ】	【スクラップド・プリンセス】	【マブラヴ】(18禁)	【ロード・オブ・ザ・リング 二つの塔】	
		【LAST EXILE】		【ロード・オブ・ザ・リング 王の帰還】	
		【宇宙のステルヴィア】		【ウォーターボーズ】	
		【金色のガッシュベル!!】		【仮面ライダー龍騎】	
		【おねがい☆ツインズ】		【踊る大捜査線 THE MOVIE2】	
		【銅の錬金術師】		【NEWS】	
				【タッキー&翼】	

商業出版	小説	即売会・同人誌界	その他
『電撃姫』創刊	【星界の紋章】	書店委託サークルを中心に税務調査入る	PostPet発売
『メロディ』創刊	【人買奇談】	夏コミは有明金館3日間開催	
『コミック・ゴン!』創刊	【やさしい童の殺し方】	FFVIIブーム	
『キューティ・コミック』創刊	【電撃α文庫】	ミステリー小説系ブーム	ギャルゲーサークル急増
『コミッククリムゾン』創刊	【ブギーポップは笑わない】	夏コミで発火事件	
『電撃G'sマガジン』創刊	【多重人格探偵サイコ】	冬コミで発火事件の犯人現行犯逮捕	
『コミックファン』創刊	【マリア様がみてる】	6月“コミックキャッスル”ファイナル	
『少女革命』創刊		9月“サンシャインクリエイション”第1回	
		ベテランマンガ家のコミケット参加目立つ	
		ときメモ同人ビデオをコナミが提訴	
『ウルトラジャンプ』創刊	【ハリー・ポッターシリーズ】	1月ポケモン同人誌逮捕事件	匿名掲示板あめぞう人気
『クッキー』創刊		夏コミ2日目朝から15年ぶりの大雨	児童ボルノ法成立
新声社倒産		冬コミ初の3日間開催	
		女性系ジャンルの停滞傾向下げる	
		【封神演義】ブーム	
駿々堂倒産	【キノの旅】	3月“ソリコミin沖縄コミケットスペシャル3”	2ちゃんねるブームに
集英社スーパーダッシュ文庫創刊	【まるマシリーズ】	ヤフーオークションでのコメト通行印の転売が問題になり始める	デスクトップアクセサリ「偽春菜」
		夏コミより「CD-ROMカタログ」発行	
		6月第1回著作権シンポジウム(コミケット主催)	
		オンライン=即売会急増	
		8月同人誌即売会連絡協議会設立	
		11月第2回著作権シンポジウム(コミケット主催)	
		【ワンピース】ブーム	
		【NARUTO】ブーム	
『ガンダムエース』創刊	【トリニティ・ブラッド】	一般参加者のお客様化進む	東京都青少年条例改定
【イリヤの空、UFOの夏】		3月フットワーク倒産	「先行者」ブーム
【ネガティブ・チェンジ・エイジ】		ネットワークAMIスタート	WinMX公開
【空の境界】(同人)		イケメン特撮ブーム	
『コミックブレイド』創刊	【少年陰陽師】	冬コミ有明金館で3日間	警察が猥褻罪で(松文館)を摘発
『COMICゼロサム』創刊		“コミックレ・オリューション”有明で開催	
		タイム企画・日本コム、彩美印刷倒産	
		【テニスの王子様】大ブーム	
		【マリア様がみてる】ブーム	
『ファウスト』創刊	【マルドック・スクランブル】	夏コミは、設営含め全日程が雨	Winny公開
	【ガンドムSEED】	【ガンドムSEED】ブーム	
		ロレンス・レッジ教授CreativeCommonsの真似として日本の同人誌を紹介	

企業と コミケット

企業とのかかわり

印刷所の搬入

コミケットは始まってからずっと、自分たちの本を自分たちで持つて来て、自分たちで頒布するというスタイルで行ってきました。発行部数もコピー誌が主流だったため、これで充分だったのですが同人誌を安く刷ってくれる印刷会社が出てくるようになり次第に部数も増え、自分たちで持つて来ることが出来なくなりました。こうして印刷会社による搬入が行われるようになったのです。



1.晴海時代

コミケットに2番目に出店した企業は、なんとC25の時の「ペリカン便」でした。新館1階の奥で受付業務を行いましたが、このとき1回限りでした。次にC28で今はなきフットワーク(会社はありますが、宅配業務からは撤退)が、荷物の搬入・搬出を行うために出店を行い、これ以降宅配便の出店はとぎれることなく続いています。

サークルになじみの深い画材販売が会場で行われるようになったのはC35('89)春コミの時からで、新館1階にアイシーと言うトーンメーカーが出店しました。当時はトーンの金額が今より高く、直売による安売りのおかげで原稿中のトーン率が上がったと、うわさになるほどでした。幕張に移ったとき会場内のスペースに余裕が出来たため、他の画材屋さんも増えてきて2~3社の入れ替わりもありましたが、現在とほぼ同じ会社がここで集まって来ています。

今までの企業がサークルサービスの一環として転入して来たものだとすると、一般参加者に向けてアピールするために出展して来た企業も出てきました。C30で味の素が「ラビュタ」と言うドリンクのPRのために出展したのが始まりです。新館2階を半分使い休憩所兼PRブースを作りました。更にC38(幕張)の時と、C39の時の2回、富士通が自社パソコン(FM TOWNS)のPRのために出展しています。



※写真は有明会場のもの



コミケットと企業とのつきあいは、当初は、印刷所、宅配便、画材と、同人誌に直接関係のある企業から始まった。その後、コミケットが拡大していくにつれ、広告・宣伝の場所として企業の注目を集めようになる。そして、有明の西4Fへの企業ブースの設置は、さらに企業の関係を大きく変えていくことになる……。

一般参加者が23万人という数にふくれ上がったコミケットの存在を社会や企業が気付いたのがちょうど1990年ごろからと思われます。これ以降出展に至らずとも連絡をとつてくる企業数は増え続けています。

この他晴海に戻ってC48でNECがゲーム機のプロモーションを行い、これが現在の企業ブースの原形になっています。NECと他ゲームメーカー数社が小間分けして新館2階の1/2を使用して出展しています。

晴海までのこうした企業出展はあくまでも予備スペースを使用して、空いたときに出展するというものでした。有明に移っての1つのホールを毎回続けて企業ブースとして使用していくことは、まったくその場所のとらえ方から違います。サークルスペースになるかもしれない場所を、あえて企業ブースとして使用する事に対して賛否両論がまき起こりました。コミケットの企業ブースに対するスタンスを以下に掲載します。

マルチメディアのNEC

3日間とも、新館2Fで待ってるね!

●PC-FX、PCエンジン新作ソフトデモンストレーション
●ミケでしか手に入らないプレミアムグッズの販売
●ハード、ソフトの即売
●アニメファンのためのNECブースです!
新館2Fに300m²の展示スペース!

©NECホームエントロニクス パーフェクトグラフ事業部 TEL:03-36645111(代表)

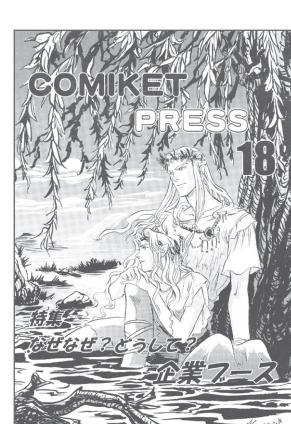
●PC-FX、PCエンジン新作ソフトデモンストレーション
●ミケでしか手に入らないプレミアムグッズの販売
●ハード、ソフトの即売
●アニメファンのためのNECブースです!
新館2Fに300m²の展示スペース!

©NECホームエントロニクス パーフェクトグラフ事業部 TEL:03-36645111(代表)

企業ブースはなぜあるの?

コミケットプレス18(C64)では企業ブースについて特集。右は米沢代表のコメント。

右は米沢代表のコメント。



(米沢嘉博)

コミケットに企業スペースが設けられることになった一番大きな理由は、全館使用が前提となるコミケットで、搬入、人の導線などがネットとなる西4階をどう使用するかということでした。以前から企業出展できないかという話は幾つもあって断つてきていましたし、委託同人誌コーナー、原画展示やアマチュア映像作品など、マーケット以外の表現に使える空間の必要性を感じていました。また、アマチュアサークルから小出版社へという動きが加速する可能性に加えて、同人誌と企業のコラボレーションの登場も予測されました。なんと言つても、商業主義とアマチュアリズムの対立という構造が、作品の中身も含めて、以前ほど失つてない状況でもあったのです。それに、同人誌が閉塞していくことがあります。理念にあるように、コミケットはあらゆる表現の可能性を探り、拡大していくことを目的とします。最終的にはプロもアマも含めた、自由な表現の場を求めていくことになるのでしょう。

著作権の問題も浮上していました。同人誌やパロディへの誤解(パターン化された捉え方)をなくし、出版社などに同人誌の実像、そしてイベントや本の面白さ、その活動の意味を知つてもらいたいという思い。同人誌がプロ作品に刺激を与えることも含め、コミケットに参加し、体験してもらわなければ、伝えることは難しいのです。コミケット経験者が、描き手、編集者などに多く進出する時代にも入り始めました。それに、警備費を始め、増大し続ける経費を、参加費やカタログができるだけ値上げせざやつていくためにも、企業スペースの運営を導入する必要性があつたといえます。

—コミケットは自閉することなく、社会と関わり、開かれた形で続けられなければなりません。そして「表現」もまた多くの人に開かれているべきだと考えます。企業スペースも、そうした流れの中での一つの試みだったのです。

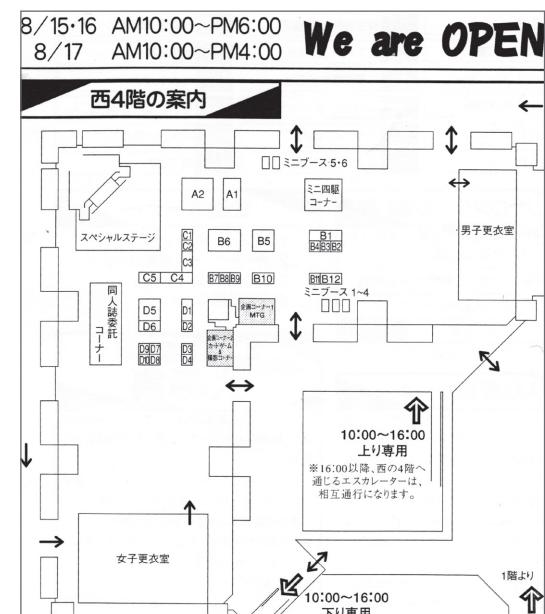
なぜ、企業ブースがあるのか?

2.有明以降

C51、有明に移ってから本格的に企業ブースの運用は始まりました。恒久的な場所の確保や、物販・PR活動に対する規制の緩和、さらに大きいのが受け入れる企業の巾を大きく広げること等が、コミケットの受入体制として決められました。実務的にはアクセスしづらい西4階地区へサークルを置くことが大変なためというのも理由の一つでした。企業ブースにはサークルやスタッフからも否定的な意見が多く、企業目的のみの参加者の増加やマナーの悪化、出展社とのトラブル等も懸念されていました。出来てから9年目の今、あるのが当たり前という有明に移ってからの参加者も増え、学生時代からコミケットに来ていた出展担当者も増え、お互いに理解が深まった部分も多くなって来たようです。

企業とは「お互いにアニメ・ゲーム・マンガ等の反映と存続を働きかけていく同じラインに立った仲間」という位置関係にいるのではないかと思われます。

とは言え始めてから4回目位までは、企業数も少ない上、企業とのつきあい方も分からず試行錯誤が続きました。この頃は、カードゲームコーナー、ミニ四駆コーナー、世界の同人誌紹介等の有志主体の企画もいろいろと行っていました。この中で世界の同人誌紹介は未だに続いています。初期の頃は認知度も低く、人があり集まらなかつたため、閑散とした雰囲気がただよい、いかに活気があり、来てみたくなる場を作るかが命題でした。ステージを作り出店企業にイベントを行ってもらう等の試みも行いました。



C54よりだんだん出展希望メーカーも増えはじめ、C55より企業パンフレットも発行されました。企業ブースが活気づき始めたのはこのあたりからです。最初は西4階全体で更衣室+企業ブースとして使用していたのですが、西3ホール更衣室、西4ホール企業ブースと分離して開催するようになりました。

初期に一度行ったステージも、自ブース内のイベントが多くなり、他ブースへの影響が大きくなってしまったため、C62より再開する事となりました。サイン会・握手会等の小イベントは自ブースで、トークショー、ライブ、公開放送等の大音量になるものはステージを使用して行うこととしました。この方法は、来場者にも好評で、楽しみにしてくれる人も多かったのですが、出展社増加によりC64を最後にステージは設けていません。

現在全部で150コマ設営できる西4ホールですが、C65以降250コマ近い申し込みがあるため、ステージや休憩所等スペースを大きくとることはむずかしい状況になっています。

どんな企業が出展しているのか？

企業ブースというと、ゲーム会社とキャラクターグッズ会社しかいないと思っている人は、かなり多いようです。実際、小間の多くがそのような企業で占められています。しかしながら、業種別で見てみると以下のようにいろいろあるようです。

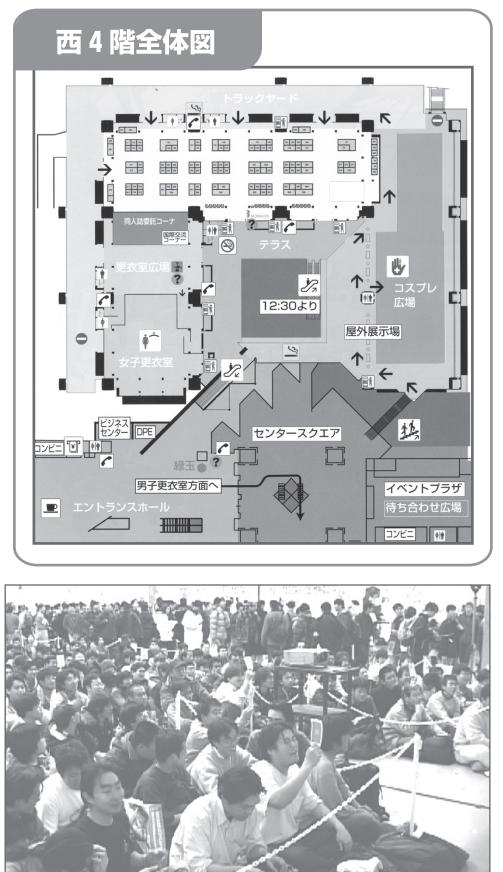
- ・ゲーム制作(PC・家庭用)
- ・出版社
- ・旅行代理店・運輸
- ・印刷会社
- ・アニメ・レコード制作会社・TV局
- ・グッズ販売
- ・芸能事務所・イベント運営会社
- ・専門学校
- ・コスプレ衣装販売
- ・フィギュア・ドール関係

ざっと上げただけでこれだけバラエティに富んだ会社が

出展しています。

会場で自宅までの切符を買えるのも企業ブースならでは？

西4階全体図



企業

コミケットが初めて企業を受けて20年になります。最初の頃の宅配便・画材・印刷会社といったいつも変わらない企業しか出ていなかった10年間に比べ、有明に移ってからの9年間は、かなり目まぐるしいものでした。毎回の様に変わる出展企業、それまでとかなり違う業種、増え続ける来場者。これからもコミケットが続く限り、新たな型の企業参加も増えて行くことになるでしょう。手を取りあうことによっておたがいにメリットを見い出し、コミケットの発展につなげられればと思います。



企業ブースパンフレット

企業ブースへ
行こうじゃないか

ああすみーだー！ ハヤウ

会場で正月準備するな！

スタッフの指示に従って下さい

会場内では走らない

Hな紙袋がほしいのか?

火気厳禁です

COMIC MARKET 55
企業ブースパンフレット

COMIC MARKET 60
企業ブースパンフレット

COMIC MARKET 67
企業ブースパンフレット

COMIC MARKET 67
企業ブースパンフレット

C55より企業ブース独自でパンフレットを作成しています。

これは来場者の中にはカタログを購入していない人も多く、そういう方々にコミケの注意事項を遵守してもらうために作っています。マンガで注意点を描き、手に取りやすいものを目指しています。

さらに出展企業の販売物やイベントの最新情報を1社1コマ掲載したり、西4階全体の案内をのせることにより、家にまで持ち帰ってもらえるパンフレットになっています。

パンフレットの仕様は、A4判・28ページ(予定)・中とじ・フルカラーとなっています。